三田尻鹽務局

秋穗出張所之部

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

三田尻鹽務局秋穗出張所ノ部

第一章　鹽田位置、方位及附近ノ地勢、地形

花香濱鹽田ハ周防國吉敷郡南部秋穗灣ノ東端ニ位シ西ハ同灣ニ臨ミ南ハ花香山、海中ニ突出セリ東ハ山ヲ負ヒ該山脈ハ南ヨリ北ニ走リテ花香、中津江、兩濱ヲ圍繞セリ連山突兀トシテ樹木ニ乏シク麓ニハ多少ノ耕地アリテ鹽田ニ接セリ又點々人家散在ス北ハ中津江濱ニ連ナリ同濱ヲ經テ秋穗村字秋穗浦ニ接ス花香、中津江兩濱ノ境界線及花香濱ノ南端ニ花香山麓ヲ繞リテ各一條ノ入河ヲ有シ之ニヨリテ附近ノ排水ヲ爲シ兼テ小船ノ碇泊、荷物ノ揭卸ニ便セリ

本濱ヨリ東西ニ通セル里道アリ東ハ山脈ト花香山トノ中間ヲ迂廻シテ秋穗村字忠道ヲ經テ靑江ニ達シ西ハ平坦ニシテ中津江ヲ經秋穗浦ニ貫通セリ秋穗灣ハ北方ニ屈曲シ灣內水深ク海底良好ニシテ船舶ノ碇泊ニ適ス

第二章　鹽業ノ沿革

當地方ニ限ル特殊ナル鹽業ノ沿革ハ茫乎トシテ事績ノ徵スヘキモノナシ只一二大體ニ關スルモノニ付テ記述センニ

鹽田ノ開拓年ヲ追テ增加シ鹽ノ製產力頗ル豐富ニシテ遂ニ需用供給ノ不平均トナリ鹽價大ニ下落シ鹽業者ノ一大恐慌ヲ來シ寬政六七年ノ頃ハ殆ント其極度ニ達セリ玆ニ於テ田中藤六ナルモノ同七年採鹹時季ニ製限(二月ヨリ八月マテ)ヲ附スルコトヲ發案シ藩主ノ許可ヲ得テ安藝、備後、阿波、讃岐、播磨等ノ同業者ヲ備後國尾道ニ會シ合議ノ上翌年ヨリ之ヲ實施シタルニ頗ル好成蹟ヲ得タリト云フ此方法ハ即チ現今行ハレツヽアル替持法ニシテ尾道ニ於ケル會合ハ今ノ十州鹽田組合ノ濫觴ナルヘシ

又鹽價ノ下落シテ鹽業者ノ恐慌時代ニ於テハ往々當業者ノ業務ヲ拋テ逃走スルモノアリ斯ル場合ニ於テハ藩主自己ノ計算ニヨリ之カ營業ヲ爲サシメタル事蹟アリ其他專賣、保護、奬勵等ノ有無ハ得テ知ル可ラス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第三章　製鹽方法

甲　鹹水採收

一　鹽田ノ種類及面積

一鹽田、入濱

一面積　一町六反三畝二十六歩（一戸前）

内　一町五反二十一歩　鹹水採取地域
　　一反八畝五歩　溝渠

外　一反十九歩　釜屋、倉庫、納屋及鹹水溜敷地

當地方ニ於ケル鹽田ノ區劃ハ稍整然トシテ多クハ長方形ヲ爲セリ而シテ其面積ニ至リテハ頗ル不同ニシテ其反別少キハ九反ヨリ多キハ二町九反ニ及フモノアレトモ一町五六反ノモノ最モ多シ又別ニ百性濱ト稱ヘ農民農閑ノ事業トナスモノアリ其鹽田ノ面積ニ至リテハ僅ニ數畝歩ニ過キス

二　堤防ノ面積、高低及築造材料

一面積三畝二歩

一高海底ヨリ二間四尺　宅地々盤ヨリ一間三尺（堤防ノ內側ニ釜屋鹹水貯藏場貯藏場等ヲ建設セリ）鹽田地盤ヨリ三間一尺

一築造材料　石及土砂

鹽田ノ地盤ハ滿潮面ヨリ低キコト八尺ナリ堤防ノ幅員ハ其上部ニ於テ五間下部ニ於テ六間ヲ有シ外部ニハ別ニ腰卷ヲ築キ以テ堅牢ヲ期セリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

三　鹽田內溝渠ノ面積

一鹽田內溝渠ノ面積　一反八畝五歩

一同　長　縦百五間五尺七寸、横四十三間四尺一寸

一同　幅　平均三尺五寸（大潮廻リ六尺乃至二尺八寸　小潮廻リ四尺乃至二尺五寸）

一同　深淺　一尺五寸（時ト處トニヨリ多少ノ深淺ナキニアラサレトモ其差ハ僅少ノミ）

一各溝渠間ノ距離　七間四寸（所ニヨリ多少ノ差アレトモ大差ナシ）

四　撒砂（鹹砂）浸出裝置ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置、施設

一鹹砂ヲ浸出スヘキ裝置ハ沼井式ニ依ル

一沼井ノ構造、板ヲ三ノ字形ニ配置シ其左右ヲ粘土ニテ築キ中央ニ區劃ヲ有スル一ノ土槽ヲ築キ其ノ最低部ハ弓形ヲナシ濾下スル鹹水ヲ其中央ニ集メ以テ之ヲ藻垂ニ誘致スヘク築造セラレ之ヲ鏡ト稱ス鏡ノ上ニ根太六本ヲ横ヘ其上ニ竹責（六本ト稱ス）ヲ置キ又其上ニ藁ヲ敷キ更ニ茅若クハ菰ヲ以テ蔽フ沼井ノ中央ヲ區劃セル板ヲ中戸合板ト云ヒ兩端ノ板ヲ端戸合板ト云フ又沼井ヲ夫婦臺ト稱ス又鹽田ノ地形ト採鹹操作ニ便否ヲ圖リ地盤ノ兩端ニ臺ヲ設クルモノアリ之ヲ片臺又ハ半臺ト云フ沼井ノ外側前面ノ地盤ニ圓形ノ槽ヲ埋メ其上方左右ニハ梯形ノ石（ウデ石）ヲ置キ前方ニハ板ヲ横ヘテ方形ノ圍ヲ爲セリ之ヲ藻垂ト云フ其容量四斗

一沼井ノ面積　四坪　一沼井ノ個數　九十個即チ百八十臺　一沼井ノ大小　縦二間三尺横二間五寸但シ四隅圓形ヲ爲セリ　一沼井ノ高低　一尺三寸　一沼井ノ配置　採鹹地反別五十坪ニ一個（夫婦臺）

五　鹹砂貯藏裝置、構造、大小、面積及鹹砂ヨリ鹹水ヲ採取スル方法　該當記事ナシ

六　鹹水輸送裝置ノ構造、面積及輸送ノ方法

一輸送裝置ノ溝造、鹽田ノ中央部ニ高サ一間ヲ有スル木製枠ヲ置キ其上ニ木槽ヲ備ヘ槽ノ中央部ヨリ徑二寸五分ノ竹管

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ヲ垂下シ其地上ニ達スルヤ屈曲シテ暗管ト爲リ鹹水貯藏池ニ達セリ又槽ノ左右ニハ歩ミ板ヲ架設シタリ此裝置ヲあんこト稱ス

六　一面積　一坪六合

一輸送ノ方法、藻垂ヨリ荷桶ニ汲取リ歩ミ板ニヨリテ槽中ニ入ルヽトキハ竹製暗管ヲ流通シテ自ラ鹹水貯藏池ニ輸送セラル

但シ鹹水池附近ニ於ケル藻垂ノ鹹水ハ荷桶ニテ直ニ鹹水貯藏池ニ運搬ス

七　採鹹用器具ノ名稱、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方法

名稱	種類	員數	効用	使用方法	構造大小、形狀ハ圖ニテ示ス
擔桶（ダレシャク）	桶	七	鹹水ヲ鹹水輸送裝置又ハ鹹水貯藏地ヘ運搬シ若クハ沼井ニ潮水ヲ汲込ム	藻垂杓ヲ以テ鹹水ヲ汲入人肩ニヨリテ運搬ス	
藻垂杓（ソウシャク）	杓	四	藻垂ヲ沼井ニ汲入レ又ハ藻垂鹹水ヲ擔桶ニ汲入ル	人力ニヨル	
打杓（ウチシャク）	同	四	撒潮ニ使用ス	同	
濱曳（ハマコ）	鍬	六	田面ノ撒砂ヲ横縦斜ニ攪伴ス	雙手ヲ以テ柄ヲ握リ縦横自在ニ除行ス	
鐵子（カナゴ）	鍬（キ）	四	始業ノ際又ハ雨後始業ノトキ田面ニ固着セル撒砂ヲ掻キ起ス	緒ヲ肩ニ尻掛ヲ腰ニ掛ケ雙手ニテ柄ヲ握リ後向ニ徐行ス	
溝堀（カナサ）	同	四	撒砂ヲ田面ニ撒布シ若クハ溝渠内ノ泥土ヲ堀上ク	雙手ヲ以テ操作ス	
沼井堀	鍬	八	沼井中ノ骸砂ヲ沼井麓部ニ堀移ス	同	
掛端（カケハシ）曳（ヒキ）	鍬	四	田面ノ塊砂ヲ破キ撒砂ノ分布ヲ平均セシム	其繩ヲ肩ニ掛ケ左右ノ手ヲ以テ低ク押ヘ徐行ス	
端（ハシ）踏（フミ）	鍬	八	寄板ニテ集メラレタル鹹砂ヲ沼井中ニ收容ス	人力ニヨル	
沼井踏	鍬（イレ）	四	沼井中ニ收容セラレタル鹹砂ヲ平均セシム	同	
端（ハシ）取（トリ）	同	一	地盤ノ周圍ノ鹹砂ヲ持目着手前ニ内方ニ掻キ寄ス	柄ヲ握テ先方ヘ押シ寄ス	
道曳	同	四	溝渠中ヨリ堀上ケタル泥土ヲ田面ニ平均ス	人力ニヨル	
寄板	同	六	田面ノ鹹砂ヲ沼井麓ニ集ム	濱曳竹子ノ光端ヲ削ル	
鎌		六			

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

八　採鹹用器具ノ新調費及保存期

名稱	費金	保存期	摘要
荷桶	一圓	三年半	沼井ノ兩端ニ各二個ツヽ備付クルモノトス
藻垂杓	十六錢	一年	鐵子鍬ト同シ
打杓	十六錢	四年	二人兩手ニテ持運フ
濱曳	三十八錢	三年	緒ヲ持チ四人ニテ徐行ス
鐵子	一圓五十八錢	二年桁鐵子四ケ月	
溝堀鍬	五十三錢	一年	
沼井堀鍬	十六錢	一年	
掛板	二十五錢	三年	
端曳鍬	四十五錢	二年	
沼井踏鍬	十六錢	二年	
端入	二十五錢	二年	
道曳	二十五錢	一年	濱曳ノ古物ニテ製作シ新調スルコトナシ
寄板	三十錢	一年半	
鎌	十四錢	一年	
礎子	一	四ケ月	
礎子本	一圓二十八錢	一年桁鐵子四二年	
礎子太	六十錢	一八〇年	沼井中ニ藻垂又ハ潮水ヲ注入スル際鹹水ノ攪亂ヲ防ク始業ノ際田面ニ固着セル撒砂ヲ掻キ起ス
礎子根	六十錢	四年	包裝鹽及ヒ炭骸運搬
奇異草	二十錢	二年	始業ノ際田面ヲ平均ス
礎子	一	一年	

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

名稱	費金	保存期	摘要
畚根太	三十錢一圓十	一年	

九　鹹水貯藏裝置ノ構造、大小、形狀及面積

一製鹽場ニ接續シ二個ノ鹹水貯藏池ヲ有ス最モ製鹽場ニ近接セルヲ本坪ト稱ヘ之ニ隣リスルモノヲ助坪ト稱ス何レモ粘土ヲ以テ築造シ周圍ニハ筵ヲ垂下セリ是レ水ノ動力ニヨリ粘土ノ崩解ヲ防ク爲メナリ坪ハ木造瓦葺ノ上家ヲ以テ掩ハル其構造甚タ底クシテ軒ハ殆ント地邊ニ達セリ就中本坪ノ上家ハ助坪ノ上家ニ比シ高キコト多シ是レ坪ノ上ニ座ヲ設ケ繩莚ノ類ヲ貯藏シ若クハ包裝ノ準備作業ヲ爲スノ必要アルニヨリタルモノナリ

今貯藏池ノ大小、形狀、面積ヲ示セハ左ノ如シ

（一）大　小　本坪縱十間二尺橫四間一尺　助坪縱十間二尺橫三間二尺　深サ何レモ五尺三寸

（二）形　狀　孰レモ長方形

（三）面　積　本坪上部四十二坪九合　下部二十九坪四合　助坪上部三十四坪三合　下部二十三坪五合

十　鹽田地盤ノ構造及性質　地盤ノ構造ハ三層ヨリ成ル最下層ハ海水ノ自由ニ交通シ得ル部分ニシテ其厚ハ測リ知ル可カラス其上層ハ最下層ノ潮水ヲ毛細管引力ニヨリ吸揚ケ最上層ノ撒砂ニ達セシムル媒介者ニシテ其厚サ二寸五分最上層ハ即チ作土ニシテ其厚サ一寸ナリトス

最下層ノ土質ハ薄灰色ノ細砂ニシテ粘力頗ル疎ナリ中層ノ土質ハ茶褐色粘力ヲ有シ上層ハ土質灰色ニシテ極メテ細微ナル土砂混合セリ

各土質ニ於ケル土砂混合ノ割合左ノ如シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

最下層　溶解性ナシ　　中層　溶解性約五分　　上層　溶解性約二分

十一　撒砂(鹹砂)ノ種類性質　撒砂ハ灰色ニシテ稍粘土ヲ含有ス而シテ之ハ其地固有ノモノニアラス年々他ヨリ移入セリ之ヲ入替土又ハ肥シ土ト稱ス撒砂ノ種類即チ粘土ヲ含有スルノ多寡カ鹹水ノ品質ニ及スヘキ關係ハ天候、季節及地盤等ノ如何ニ係ルヲ以テ概括シテ優劣ノ差ヲ明示スルコト能ハスト雖モ當地方ニアリテハ概シテ粘力ノ疎ナルモノ比較的產鹽ノ品質良好ナレトモ鹽分含有量ニ至リテハ粘土ニ富メルモノニ若カスシテ結極一利一害ヲ免レサルモノヽ如シ

撒砂ニ含有セル粘土ノ多寡ニヨリ鹹水ノ濾出ニ遲速ノ差アルコト恰モ五ト十トノ關係ノ如シ即チ粘土ノ少キモノハ鹹水ノ濾過急速ニシテ粘土ノ多キモノハ遲緩ナリ同一ノ鹽田ニアリテモ手前ノ沼井ニ於ケル鹹水ノ濾過ハ二時間ニシテ手先ニ於テハ四時間ヲ要ス是レ手先ノ溝渠中ニ粘土ノ沈澱スルモノ多ク(溝渠ニ海水ヲ入ルヽニ方リ溝渠中ニアル粘土ヲ手先ニ押シ流シ玆ニ沈澱ス)之ヲ堀揚ケ撒砂ニ混交スルヲ以テ自然ニ粘力多ク隨テ濾過遲緩トナルナリ

十二　撒砂(鹹砂)撒布量及替砂ノ數　撒砂ノ撒布量ハ氣候ト地盤トノ關係ニヨリ同一ナラス即チ溫度ノ高キ時ニ於テ撒布量多ク低キ時ニ於テ寡シ又同一鹽田面ニアリテモ乾燥ノ良否ニヨリテ差異アリ左ノ如シ

(一戸前一町五反歩ニ付)

溫度	關係	一坪撒布量	一坪撒布重量	地場ノ關係		摘要
				乾燥ノ良好ナル所	乾燥ノ不良ナル所	
高	溫	一斗六升	四貫九百目	一斗七升	一斗四升	溫度ノ高低ニヨリ鹹砂ノ重量ニ輕重アリ即乾燥ノ良好ナルモノ輕クシテ不良ナルモノ重シ一坪ノ撒布量及其重量ハ何レモ普通ナルモノヲ示セリ
低	溫	九升	三貫五百目	一斗一升	八升	

替砂ノ數亦タ一樣ナラスト雖モ約二十五斤內外ナリ

十三　撒砂乾燥ノ時間　撒砂乾燥時間ハ二十四時間ニシテ季節ニヨリ長短ノ差アルコトナシ但季節ニヨリ乾燥ノ終始ニ多少ノ差アリ即チ左ノ如シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

春夏ノ候ニ於テハ午後一時ニ始メ翌正午十二時ニ終ル、秋冬ノ候ニ於テハ午後二時ニ始メ翌午後一時ニ終ル

十四　撒砂浸出裝置ニ注入スル海水量及鹹水又ハもんだれ採收量　撒砂濾過裝置ニ注入スル海水量ハ鹹砂ニ附着セル鹽分ノ多少ニヨリ其量ヲ一ニセス故ニ同一ノ鹽田ニアリテモ鹽分附着ノ良否ニヨリ其量目ヲ異ニスルコト概ネ左ノ如シ

(1)　鹽分ノ附着多キトキ（沼井一個ニ付）　藻垂海水　八斗一石六斗乃至二石

(2)　鹽分ノ附着少キトキ（同）　藻垂海水　八斗四斗乃至二斗又時ニ海水ヲ汲込サルコトアリ

右注入シタル藻垂若クハ海水ヨリ採取スヘキ鹹水量ハ鹹砂乾燥ノ程度如何ニヨリ著シク差異アルヲ見ル左ノ如シ

(1)　乾燥ノ良好ナルトキ（沼井一個ニ付）　一石二斗乃至二石

(2)　乾燥ノ不良ナルトキ（同）　一石乃至八斗

一　藻垂採取量　（同）　八斗

藻垂ハ藻垂壺ニ充滿セシメ置クモノナルヲ以テ其量ハ即チ藻垂ノ容重ト同一ナリ

十五　海水、鹹水及もんだれノ性質

（一）　海水

比重、三度弱　溫度十九度

百分中水分　九六、〇〇　總鹽素量　二、三一一三　含有純鹽化曹達　二、九三六六七　不溶解物　〇、〇五

夾雜鹽類　一、〇一三三三

（二）　鹹水

比重、十四度强　溫度二十三度

百分中水分　八二、五　含有純鹽化曹達量　一〇、九七三二　總鹽素量　一〇、五四、九九二　不溶解物　〇、一六〇

夾雜鹽類　六、三六六四

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

（三）藻垂

比重七度強　溫度十九度

百分中水分　九一、六〇〇　鹽化曹達量　七、〇一九六七　總鹽素量　四、七八五五八　不溶解物　〇、〇三二

夾雜鹽類　一、三四八四三

十六　海水引入、排出、海水汲揚裝置及汲揚方法　堤防ニ一ノ樋門ヲ設ケ之ニヨリ誘水及排水ヲ爲ス之ヲ大樋ト稱ス大樋ノ內方ニ一ノ海水貯藏池（たぶ）ヲ設ケ此貯藏池及之ニ通スル溝渠（前渠）ヨリ鹽田內ノ溝渠ニ通スヘク更ニ二個ノ樋門（入樋）ヲ設ケ而シテ其ノ樋門ニハ水車（大車）ヲ裝置シテ必要ニ應シ海水ノ引入排出ヲ爲スヘク又鹽田內ノ最モ手前ヲ橫貫セル溝渠（前川）ノ中央ニ一ノ樋門アリ之ヲ相樋ト稱ヘ此處ニモ又一ノ水車（相車）ヲ備ヘ之ニヨリテ鹽田溝渠內ノ海水（溝潮）ヲ適宜ノ場所ニ移送スルノ用ニ供セリ其他各溝渠ニ一個又ハ二個ノ樋ヲ設ク之ヲ門樋ト云ヒ孰レモ溝潮ノ貯溜若クハ海水ノ浸入ヲ防止スルノ用ニ供セリ樋門ハ大樋及入樋ハ石材ヲ以テ築造セラレ相樋門樋ハ木製ニシテ開ハ總テ木製ナリ

又水車ヲ以テ海水ヲ引入又ハ排出スルハ車ヲ足ニテ踏ミ運轉使用スルモノトス

大車ヲ使用スヘキ場合ハ左ノ如シ

(1)　急雨ニ際シ田地ニ海水ヲ入レントスルニ干潮ニシテ其目的ヲ達スルコト能ハサルトキ水車ニヨリ海水貯藏池ノ海水ヲ引入ルヽトキ

(2)　雨晴ニ操作ニ從事セントスルニ方リ偶々滿潮ニシテ田面ニ水退カサル場合ニハ此車ニヨリテ田面ノ水ヲ海水貯藏池ヘ排出スルトキ

相車ヲ使用スヘキ場合左ノ如シ

(1)　持目操作ノ終リニ方リテ溝潮ノ必要アレモ偶々干潮トナル塲合ニ於テハさやみ即チ明日持目トナルヘキ地場ノ溝渠內ニ豫メ海水ヲ貯ヘ置キ（持目ノ地場ニハ溝潮ヲ入ルヽコトヲ忌ム）必要ヲ生シタル時ニ方リ水閘ヲ開キ貯水ヲ一方即チ持

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

目ヲ終リタル地場ニ移サントセハ忽チニシテ水平トナリ全然移送シ得サルヲ以テ此事ニヨリテ一方ニ集メントスルトキ

十七　海水貯藏池ノ有無、大小、深淺及面積　釜屋ノ右方鹽田ト堤防トノ中間ニ一ノ海水貯藏池ヲ有セリ其長サ四十五間ニシテ幅ハ不同ナレトモ平均約二間深サ一間ニシテ面積八十五坪ナリ

十八　鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ一ケ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合

一鹽田一戸前即チ一町五反ニ對スル一ケ年平均鹹水採收量　六千六百六十石

一鹹水ノ採收量ハ晴雨溫度ノ關係ニヨリ毎月毎年其量ヲ異ニセルヲ以テ月別歩合ヲ明確ニ擧示スルコトハ極メテ困難ノ事ニ屬スト雖モ今數年間ノ平均ニヨリ左ニ之ヲ列記スヘシ

四月	一割	五月	一割五分	六月	一割	七月	二割
八月	二割	九月	一割五分	十月	一割		

一平均比重　十四度

但シ最モ低キモノハ十一度最モ高キモノハ十八度ニシテ時ニヨリ其間ヲ昇降ス

十九　鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ採鹹ニ要スル人夫ノ種類名稱、員數及賃銀

人夫種類	名稱	員數	一人一日ノ賃銀	一人一ケ年賃銀	總賃銀
濱子	庄屋	一	四拾錢二厘	八十四圓四十二錢	同上
上日雇	脇番	一	三十五錢三厘	七十四圓十三錢	同
三炊		一	三十二錢二厘	六十七圓六十二錢	同
日雇		一	二十九錢	六十圓九十錢	同
沼井寄	踏	一	十三錢	二十七圓三十錢	同
		四	五錢五厘	十一圓五十五錢	同
計		一〇	一圓六十錢七厘	三百三十七圓四十七錢	四十六圓二十錢 三百七十二圓十二錢

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

備考　本表ハ鹽田一戸前一町五反歩ヲ標準トス

濱子給銀ハ玄米立ヲ以テシ大工ハ一日三升一合六勺七才上脇ハ二升七合八勺六才三番ハ二升五合三勺三才炊ハ二升二合八勺之ヲ一石當金十二圓七十錢ニ換算シテ支給スルノ慣例ナルニ付本表ハ即チ此計算ニ依レリ

又勞働日數ヲ二百十日トシテ計上シタリ

二十　鹹水採收ノ時季及採鹹量ト風位トノ關係

一鹹水採收時季ハ天候溫度等ノ關係ニヨリ一定セスト雖モ概ネ四月ヨリ十月マテ七ケ月間トス（其間普通七、八ノ兩月ヲ採鹹最好時季トシ五、九ノ兩月之ニ次ク）

一鹹水採收量ト風位トノ關係モ所ニヨリ多少ノ差ナキニアラサレトモ當鹽田ニ於テハ四時共ニ西風最モ採鹹量多ク北風、南風、順次之ニ次キ東風最モ可ナラス風位ノ如何ニヨリ鹹水ノ採取量ニ影響ヲ及スヘキ理由ハ頗ル單純ニシテ畢意風位如何ニヨリ鹹砂乾燥良否ノ差ヨリ生ス結果ニ外ナラサルナリ

二十一　一年間ノ採鹹平均日數

一持濱準備日數ハ每年十日間ト確定セリ

一採鹹平均日數百二十日　但シ少キハ百十日多キハ百三十日年ニヨリ同一ナラス

二十二　一年間平均鹹水採收量

鹽田一町五反歩ニ對スル一年間（上中下田別）鹹水採收量左ノ如シ

上田　六千六百六十石　　中田　六千三十四石　　下田　五千三百五十七石

二十三　準備及持濱其他採鹹ニ關スル操作ノ順序及方法　準備操作ハ事業開始前ニ爲スモノト雨後ニ爲スモノトノ二アリ

（一）事業開始前ニ於ケル準備操作ノ順序及方法左ノ如シ

（イ）入替砂ヲ各沼井ニ平均分配スルコト

（ロ）鐵子鍬ニテ田面ヲ掻キ起スコト

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

但シ最初八本鐵子鍬ニテ縦一鍬次ニ六本ニテ二鍬斜一鍬次ニ六本ニテ横一鍬

（ハ）沼井ニ存在セル骸砂ト入替砂トヲ混合シテ之ヲ田面ニ撒布スルコト

（ニ）濱洩　四鍬　二鍬斜　縦横各一鍬

（ホ）根太曳一回　是レ田面ヲ平均セシムルノ目的ニ於テ長一丈四尺四寸角ノ木材ニ附着シタル繩ヲ肩ニ掛ケ徐行ス

（ヘ）潮入　是レ田地ヲ固着セシムル目的ヲ以テ海水ヲ田面ニ漲ラシムルナリ

以上ノ操作ヲ新地場ト稱ス

（ト）鐵子鍬（八本）二鍬　縦横各一鍬

（チ）濱曳　四鍬　二鍬斜縦横各一鍬

（リ）根太曳　一回

（ヌ）潮入

以上ノ操作ヲ中仕入ト云フ

中仕入以下ノ操作ハ雨後ニ於ケルモノト同一ナルヲ以テ之ヲ略ス

（二）雨後ニ於ケル準備操作ノ順序方法左ノ如シ

（イ）切流　田面凹所ニ貯溜セル水ヲ去ラシムル爲メ田面ニ小溝ヲ穿チ之ニヨリテ溜水ヲ溝渠ニ流出セシム

（ロ）鐵子鍬　一鍬

但シ田面ニ潮水ヲ入ルヽコト能ハスシテ田面降雨ニ打タレタルトキハ二鍬

（ハ）濱曳

替持法ニヨリ田面ヲ溝渠ニヨリテ二分シ翌日ノ持目トナルモノト翌々日ノ持目トナルモノト其間自ラ操作ニ異ル所アリ故ニ說明ノ便宜上翌日ノ持目トナルモノヲ（甲）トシ翌々日ノ持目トナルモノヲ（乙）トス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

甲　六鍬　二鍬斜横縦二鍬斜

乙　五鍬　二鍬斜横二鍬斜

（ニ）掛板　甲乙孰レニモ使用ス

（ホ）撒潮　普通甲ノミニ施スモノナレトモ乾燥十分ナル場合ニハ乙ニ對シテモ多少施スコトアリ

（ヘ）溝潮　但同上

右ハ雨後ニ於ケル甲乙第一日ノ操作ニ係レリ第二日ニ於ケル操作ヲ甲乙ニ別ツトキハ左ノ如シ

（甲）

（イ）沼井堀

午前第六時即チ乙地場ノ朝鍬ノ終リタル時着手シ約一時間半ヲ要ス

（ロ）濱曳　二鍬　斜横（中鍬ト稱ス）

午前第十一時ニ着手同三十分ニ終ル

（ハ）濱曳　一鍬　斜（相鍬ト稱ス）

午前第十一時四十分ニ着手同第十二時ニ終ル

（ニ）持目午後第一時着手同第二時半ニ終ル

持目操作ノ順序左ノ如シ

（1）濱曳　横一鍬　是ヲ持鍬ト稱ス

（2）端曳　男子先ツ端曳鍬ヲ以テ田面鹹砂ノ一部ヲ寄セ集ム（庄屋、炊、日雇一人寄女若クハ日釜焚之ニ從事ス）

（3）寄　端曳ニヨリ區劃セラレタル鹹砂ヲ寄板ニテ沼井ノ麓ニ寄セ集ム（之ニ從事スルモノハ概ネ女子ニシテ寄子ト

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

稱ス）

（4）掬込　寄ニヨリテ沼井麓ニ集メラレタル鹹砂ヲ端曳鍬ヲ以テ沼井中ニ掬ヒ込ム（庄屋、三番、炊、日傭之ニ從事ス）

（5）沼井踏　沼井中ニ掬ヒ込ミタル鹹砂ヲ平均セシムル爲メ沼井踏鍬ニテ掻キ均ス（沼井踏ト稱スル分業者アリ）

（6）藻垂汲　藻垂ヲ沼井中ニ汲ミ込ム（寄セ女ノ操作ニ屬ス）

（7）土振　掬込ヲ終リタル後ニ着手スルモノニシテ沼井踏、藻垂汲ト同時ニ行ハル之レ自ラ分業トナリ居ルヲ以テナリ

（8）後ト垂汲（一名杓廻リ）　各沼井ヲ巡リ藻垂ノ殘留スルモノアラハ之ヲ沼井中ニ汲込ミ且ツ沼井中ニ不平均ノ所アラハ之レヲ均シ又沼井ノ側ニ鹹砂ノ殘留スルトキハ之ヲ沼井ニ投入ス（之レ庄屋ノ分業ニ屬ス）

（9）掛水　鹹砂ニ附着スル鹽分ノ多寡ニヨリ適宜溝渠中ノ海水ヲ擔桶ニテ沼井中ニ汲込ム（之レ三番ト炊トノ分業ニ屬ス

（10）濱曳　二鍬　斜　一鍬

之レ土振ノ終リタル後直ニ着手スヘキモノニシテ後ト垂汲、掛水等ト分業法ニヨリ同時ニ行ハルヘキモノナリ（上脇日傭ノ分業ニ係リ時ニ掛水ニ從事セルモノ手傳ヲナスコトアリ

（11）掛板　撒砂ヲ粉碎平均セシムル目的ニ於テ爲スモノ

（12）撒潮　撒潮ニ關シテハ後ニ說明スル處アルヘシ（濆子總掛リ）

（13）水取　（藻垂ヲ鹹水輸送裝置ニヨリ又ハ鹹水貯藏池ヘ直ニ汲取ル）（日傭ノ分業ニヨル）

（14）溝潮入　夜間滿潮ニ際シ水門ヨリ鹽田內ノ各溝渠ニ海水ヲ張溢セシム（之レ上脇ノ分業ニ係ル）

右ニテ甲ニ屬スル操作ヲ終了シ翌日ハ乙ニ對スル第二日ノ始メニ歸ルモノトス

（乙）

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

（1）濱曳　四鍬　二鍬斜　縦横各一鍬（之ヲ朝鍬ト云フ）午前第五時ニ着手シ同第六時三十分ニ終ル

（2）掛板　朝鍬ノ終了後直ニ着手ス

（3）濱曳二鍬斜（之レヲさやしト稱ス）

但甲ニ於ケル持鍬ト同時ニ作ス

右ニテ乙ニ屬スル操作ヲ終了シ翌日ハ甲ニ對スル第二日目ノ始メニ歸スルモノトス

當地方ニ於テハ普通替持方法ニヨリ日持二日持ヲ爲スモノナシ

二十四　鹹水採取ニ關スル其地ノ事項

潮水撒布　潮水撒布ノ必要ハ撒砂ニ含メル水分カ太陽熱或ハ風力ニヨリ蒸發シ盡シテモ細管現象止ミタルトキハ之ヲ續行セシムル目的ニ於テ適當ノ海水ヲ撒布シ撒布ノ撒砂ヲ濕潤セシムルニアリ故ニ地盤ノ乾濕如何ニヨリ固ヨリ其量ヲ同フセス殊ニ最モ毛細管引力作用ニ富メル地盤ニ於テハ毫モ撒潮ヲ要セサル所アリ當所轄内ニアリテハ青江濱及小濱ナル總在所大里濱等ニ於テ其實例ヲ見ルコトヲ得タリ

乙　鹹水煎熬

一　釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積　釜屋ハ木造瓦葺ニシテ其頂點ニ板窓ヲ設ケ蒸氣抜ノ用ニ供セリ晴雨ニヨリテ其窓ヲ開閉ス釜屋ノ建坪ハ間口五間奥行五間四尺五寸此面積二十八坪七合五勺ナリ

釜屋ノ中央ニ煮詰竈ヲ築キ其後方ニ溫釜一個ヲ裝置シ其側ニ瓢簞ヲ有ス又竈ノ右側ニ居出場ヲ置キ其奥ニハけち（釜焚ノ休息所）ノ設アリ

二　釜及竈ノ種類、構造、大小、其製造原料及釜ノ深淺　釜ヲ區別シテ結晶釜、溫釜ノ二トス

（一）結晶釜ハ石造ニシテ縦十一尺二寸横八尺二寸ニシテ深サ四寸ナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

（二）溫釜ハ鑄鐵製ニシテ其口徑三尺一寸深サ二尺二寸容量二石

竈ハ粘土ト石トヲ原料トシテ築造シタルモノナリ

三　石釜及竈築造方法及築造使用ニ至ル迄ノ操作

（一）竈及釜築造方法（竈ト釜トノ築造ハ相關聯シ同時ニ爲スヘキモノナルヲ以テ便宜上同時ニ說明ス）

（1）春分未タ煎熬ヲ開始セサル時ニ方リテ先ツ粘土ヲ以テ竈底ヲ築造ス是ヲ通俗どろくりト稱ス此竈底ハ一年間ノ耐久力アリ毎度收築ノ要ナシどろくりヲ終レハ

（2）粘土（赤土ニ鹽ヲ混シタルモノ）ヲ以テさなヲ造ル又其前面ニ上下二口ヲ設ケ上口ハ燃料ヲ投入スル所ニシテ下口ハ內部ノ溝ヨリ通シ來リ燃燒シタル炭骸ヲ搔キ出ス所トス

（3）竈ノ上ニ二個ノ根太ヲ橫ヘ其上ニ板（釜板）ヲ敷キ更ニ粘土ヲ敷キ上ニ長サ五寸幅四寸五分厚サ一寸ノ花崗石ヲ併列シ其間隙ヲ粘土ニテ塡充シ之ト同時ニSノ釣金ヲ備ヘ付ケ而シテ鹹水ノ洩出ヲ防止スル目的ヲ以テ「とろみ」（木灰ト鹽ヲ鹹水ニテ溶解シタルモノ）ヲ塗リ釜ノ片端ニ緣金ヲ置キとろみヲ以テ緣ヲ築キ其內部ニ薪ヲ裝入シ其上ニ濕リ莚ヲ蔽ヒ火ヲ點シテ燃燒セシム燃燒終レハ釜柱ノ上ニかせ木ヲ置キ其上ニころがしヲ橫ヘ更ニ釣木ヲ渡シ先ニ裝備シタル釣金ヲ此木ヘ懸ク而シテ釜底ノ根太及板ヲ拔キ取リ粘土製ノ枕ト稱スルモノヲ竈ノ周圍ニ幷ヘ其上ヲ粘土ニテ塗リ籠ノ四側ヲ完成シ是ヨリ先キさなノ上ニ裝入シ置キタル薪ニ點火シ續テ石炭ヲ燃燒シ同時ニ釜ニ鹹水ヲ注入シテ煎熬操作ヲ開始スルモノトス

四　鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置、構造及方法　鹹水貯藏池ヨリ鹹水ヲ釜屋ニ輸送スルニハ鹹水貯藏池ノ底部ヨリ釜屋ニ裝置セル呼井戶即チ瓢簞ノ底部ニ貫通セル竹管（徑二寸）ヲ埋沒シ呼井戶內ノ鹹水ヲ汲揚クルニ從ヒ自然ニ輸送セラルヘク成サレタリ又鹹水貯藏池ニ鹹水ノ充滿シタル場合ニハ呼井戶ニ鹹水漲溢（鹹水貯藏池ニ比シ呼井戶ノ方低キニヨル）スルヲ以テ呼井戶內ニ縱樋ヲ設ケテ之カ調節ノ方法ヲ採レリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

名稱	種類	員數	使用方法	摘要
火引十能	火箸	一	さな下ノ炭壺ヲ掻キ出ス	形狀、大小、構造ハ圖面ニテ示ス
割焚十能	十能同	一	燃燒炭ヲ掻キ分ケル	
鋤十能	十能同	一	石炭ヲ竈内ニ掬ヒ込ム	
火箸	火箸	二	火引ニテ曳キタル炭殻ヲ焚口ノ下ニ掬ヒ出ス さなノ兩側ニアル炭殻ヲ其ノ底部ニ突キ落ス	
つむ	火箸	二	竈側面ニ穿タレタル穴ノ蓋ヲ去ル	
縁切鎌	鉈	一	釜ノ内部ニ付着シタル鹽塊ヲ切落ス	
小鉈	鉈	二	釜ノ底部ニ付着シタル鹽塊ヲ剝落ス	
取柄振	柄振同	一	釜中ニ結晶シタル鹽ヲ掻キ集ム	
押柄振	柄振同	一	釜中ニ結晶シタル鹽ヲ押シ集ム	
殻捨鍬	鍬同	一	炭壺ヲ屋外ニ掬ヒ出ス	
鹽刎鍬	刎鍬同	一	籠中ニアル鹽ヲ居出場ニ刎込ム	
炭刎鍬	刎鍬同	一	炭ヲ容器ニ移ストキ及炭ヲ混合ス	
瓢簞	杓	一	瓢簞内ノ鹹水ヲ溫釜ニ汲込ム	
汲込	杓同	一	溫釜内ノ鹹水ヲ釜ノ中ヘ汲込（溫釜ノ右ニ備付）	
增し	杓同	一	同（溫釜ノ左ニ備付）	
摩り		一	釜ノ洩水ヲ防止ス	
篩		一	洩水スルニ方リ釜ノ裏面ヨリ之ヲ以テ粘土ヲ塗ル	
馬の爪		二	釜屋内ノ掃除ヲ爲ス	
苦汁	杓	一	苦汁壺中ノ苦汁ヲ釜ノ中ニ汲込ム	
鹽	籠	一	結晶シタル鹽ヲ盛リ苦汁ヲ滴ラス	

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

名稱	種類	員數	使用方法	摘要
樋（ジョウゴ）	樋	一	瓢簞內ノ鹹水ヲ溫釜ニ送ルヘキ樋	
溫メ釜	釜	二	鹹水ヲ煎熬前ニ加熱ス	
槌	槌	一	炭塊ヲ粉碎用	

六　釜其他煎熬用器具ノ新調費、修繕費及保存期限

名稱	新調費	修繕費	保存期限
火引	五十五錢	四十錢～大修繕費	一年半
能割	六十五錢	四十錢～〃	三年
能熱	六十五錢	四十五錢～〃	三年
能鋤	壹圓十錢	四十四錢～〃	一年
箸ひ	壹圓十五錢	四十七錢～〃	一年
火つ	五十五錢	四十錢～〃	二年
能箸	壹圓	七十錢～〃	一年
鎌切	廿五錢	大修繕費	一年
鉈縁	廿錢	小修繕費	一年
小鎌	廿五錢	大 二十六錢五厘	一年
取柄	八錢五厘	小	十五日
押柄	廿八錢五厘		三年
殼捨	廿四錢	二錢	四ケ月
鹽刻	廿五錢	三錢	同年
炭刻	廿五錢	二錢	同ケ月
瓢簞	十六錢	二錢五厘	五年
汲込	十六錢	〃	四ケ月
增し	十六錢	〃	同

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

苦汁	十六錢	〃			同	一年
摩擦	四錢				一	年
馬の爪	三錢				十一	年
篩	五錢				同	十五日
鹽籠	卅五錢				五	年
樋	卅錢	五			三	年
金槌	廿錢	十			五	年
釜	八圓五十錢	大修繕廿一小修繕五	圓	錢	一	年
溫め						

七　燃料ノ種類、名稱、產地、價格及品質　燃料ノ種類ヲ大別シテ二種トス曰ク塊炭、曰ク粉炭之レナリ

塊炭ニ有テハ元山炭（方言御國炭ト稱ス）粉炭（粘）ニアリテハ三池炭及平戶炭トス

一　產地
- 元山炭　長門國原狹郡宇部村
- 三池炭　筑後國三池郡三池
- 平戶炭　肥前國北松浦郡平戶町地方各所ニ產スルモノヽ總稱ナリ

一　價格
- 元山炭　百斤當二十錢　近時大ニ暴騰三十錢
- 三池炭　百斤當廿七錢　同　六十錢
- 平戶炭　百斤當廿二錢　同　二十八錢

但シ炭價ハ時ニ高低アリ本年ニ於ケル普通價格及目下ノ價格ヲ揭示ス

一品質（發熱量）　品質ノ良好ト認ムヘキモノ少ク殆ト褐炭性ニシテ少量ノ上等炭ヲ使用スル而テ一釜ニ燃燒セル石炭百五十三斤ニテ溫度攝氏廿五度比重「ボーメー」十六度ヲ有スル鹹水二石二斗ヲ一時廿分間ニ結晶セシムルニ足ルヘキ發熱量ヲ有ス右百五十三斤ナル石炭ハ元山炭百四十九斤三池粉炭十四斤ノ混合ナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

八　一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量、一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量

一釜ニ使用スル鹹水ノ容量　二石二斗九升　比重十六度（ボーメー氏）溫度廿五度（攝氏）

同　製造鹽數量及重量　數量七斗八升（五等）　重量廿一貫八百四十目（煎熬後三日目）

同　燃料ノ數量　百五十三斤

九　煎熬ニ使用スル各種石炭ノ混合ノ割合　石炭混合ノ割合ハ塊炭十ニ對スル粉炭（粘）一割乃至五分但塊炭ノ品質如何ニヨリ粉炭使用ノ割合ヲ異ニス即チ塊炭ノ品質良好ニシテ燃燒力ニ富ムトキハ粉炭ノ使用量ヲ減スルモノトス

十　鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スルカ爲メ之ヲ濾過スル裝置ノ有無、構造及方法　該當記事ナシ

十一　鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

人夫種類	名稱	員數	一日ノ賃銀	一ヶ年ノ賃銀
釜焚	日釜（大工）	一人	四十二錢四厘	九十四圓五十五錢二厘
同	夜釜（老叟）	一人	三十八錢八厘	八十六圓五十二錢四厘

備考　釜焚給料ハ白米ヲ以テ支給スルモノニシテ日釜ハ一日二升七合五勺夜釜ハ二升五合ナリ之ヲ一石當十二圓七十錢トシテ換算シ之ニ日增金日釜七錢五厘夜釜七錢ヲ加ヘ以テ一日ノ賃銀ヲ得又一ヶ年勞働日數ヲ二百二十三日トシテ計上シタリ

十二　一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量幷ニ其ノ收鹽量

一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數　十三釜

但シ時ニ一二ノ增減ナキニアラサレトモ釜數ヲ增ストキハ自然ニ鹽質ヲ粗惡ナラシムル恐アルニヨリ普通十三釜ヲ出ルコト稀ナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一一晝夜ニ使用スル鹹水量　二十九石七斗七升

一一晝夜ノ生鹽容量　十石一斗四升（煎熬當時ノ量ニ依ル）　此重量三百二十四貫四百八十目

十三　鹽田一戶前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量

一製鹽容量　（鹽田一戶前一町五反歩）　二千二百六十一石

一同　重量　（鹽田一戶前一町五反歩）　六萬千〇四十七貫目

十四　居出場ノ構造、大小、廣狹　居出場ハ釜屋ノ右側ニ設ケラレ其數三個ニシテ凸字形ヲ爲セリ鹽ノ煎熬ヲ終ル毎ニ茲ニ積置キ一晝夜分ヲ一居出ト稱シ三日目ニ至リ順次或ハ包裝シ或ハ貯鹽庫ニ移スモノトス其構造、大小、廣狹左ノ如シ

一構造、周圍ノ三方ハ板張ト爲シ而シテ鹽ヲ堆積スヘキ部分ハ地盤約二三尺ヲ堀リ下ケ下層ニハ小石、上層ニハ砂ヲ敷キ其上ヲ少シク傾斜ヲ有セル板張ト爲シ以テ苦汁ノ垂去ヲ容易ナラシメ其上ニハ板ヲ以テ天井ヲ造リテ煤塵ヲ防キ居出場ノ前面モ亦板張ト爲シ鹽ノ他物ニ混和セサル樣ナサレタリ

十五　煎熬ニ關スル操作及其方法

（一）　煎熬ニ關スル操作方法及苦汁混和ノ時幷ニ其數量左ノ如シ

溫釜中ニテ多少ノ水分ヲ去リタル鹹水ヲ汲込杓ニテ煎熬釜ニ移シ而シテ溫釜ニハ瓢簞ニ於ケル鹹水ヲ補充ス斯クテ適度ノ溫度ヲ以テ煎熬スルトキハ鹹水ハ沸騰シテ其水分ヲ蒸發シ漸次結晶析出シ來リタル時苦汁杓ヲ以テ苦汁壺ヨリ約三斗六升ノ苦汁ヲ注加シ而シテ押柄振ヲ以テ釜中ヲ攪拌シ再ヒ結晶析出シタル時ニ先ス押柄振ヲ以テ廻シ方ヨリ取前ノ方ヘ押寄セ直チニ增杓ニヨリ溫釜中ノ鹹水約十抔ヲ注入シ更ニ取前ヨリ取柄振ヲ以テ結晶鹽ヲ取前ニ集メ苦汁壺ノ上ニ備置キタル鹽籠ニ收容シ苦汁ヲ垂シ置キ次ノ釜取ニ着手スル時更ニ之レヲ居出場ニ移スモノトス

右ノ操作中竈內ニ石炭ヲ投入スルコト十數度、割十能ヲ施スコト約五度、火箸ニヨリさなヲ掃除シ炭骸ヲ突キ出スコト二度、以上ノ操作ニ要スヘキ總時間ハ一時五十分ニシテ苦汁ノ注加迄ニ要スヘキ時間一時二十分注加後ニ要スヘキモノ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

三十分ナリ

十六　從來使用シタル釜及竈ノ變遷幷ニ使用燃料ノ變遷　竈及ヒ釜ノ構造ニ關シテハ既往六、七十年ノ間ニアリテハ著シキ變遷ナキモノヽ如シ只二十年以前迄ハ釜築造用ニ供スヘキ石ハ扁平ナル天然物ニシテ廣島地方ヨリ輸入シテ使用セシカ爾來割石ヲ使用セラルヽニ至リタルノミ又燃料ニアリテモ惣在所濱ニ於テ三十五年以前頃マテ松葉ヲ使用セシコトアルヲ知ルノミニシテ其他ノ濱ニアリテハ石炭以外ノ燃料ヲ使用セシ事蹟ヲ證スヘキ書類ナク又生存古老ノ記臆ニ存セサル所ナリト云フ

十七　煎熬ニ關スル其他ノ事項　所轄内、花香、中津江、青江濱ニ於テ往々煎熬竈ノ煙道ニ鍛鐵製内側縱五尺五寸幅二尺四寸一分深サ二寸七分厚サ一分ヲ有セル煎熬釜ヲ裝置シ本釜ノ餘熱ヲ利用シテ眞鹽ヲ製造セリ一釜ニ容ルヘキ鹹水四斗五升ニシテ之レヨリ得ヘキ製鹽八升内外ナリ又一釜煎熬ニ要スヘキ時間八時間ヲ要セリ此裝置ニヨレル製鹽ノ品質ハ二等乃至四等ナリ

十八　一ケ年平均煎熬日數　二百二十三日

但シ一年間ニ於ケル煎熬日數ハ多キハ二百四十六日少キハ百九十日ニシテ一樣ナラス

十九　一ケ年平均收鹽量

一、容　量　二千二百六十一石（鹽田一戸前一町五反歩）

一、重　量　六萬千〇四十七貫目

二十　一年間ノ採鹹及煎熬總費用

上　田　千八百五十八圓四十七錢七厘、（一戸前一町五反歩ニ付）

中　田　千六百六十八圓七十一錢四厘　同

下　田　千五百六十四圓五十九錢一厘　同

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

二十一　從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算表

收支科目	金額	摘要
收入	二、二一五、五〇〇円	製鹽石數千七百五十石、一石當壹圓貳十錢
計	二、二一五、五〇〇	
支出		
採鹹ニ關スル費用	一一四、五五六	入替土、鹽田修理、桶、沼井筵、礎子、藁、小竹、鹹水溜修理、堤防、樋管、水門修理、鋤、鍬、固定資本償却費、建築物修理費、下拵費
煎熬ニ屬スル費用	八九、三五八	石灰、塗灰、釜石、赤土、溫釜、金物道具、貯藏場修理、固定資本償却費、薪、釜改築費、筵、石油、鹽籠、建物修繕費
燃料	五九九、七六〇	本山炭四十三萬五千斤 百斤當十一錢　三池炭 五萬千六百斤 百斤當廿三錢
採鹹ニ關スル勞銀	六二八、〇三二	女日雇四人、沼井踏一人、濱子四人
煎熬ニ關スル勞銀	一九八、六八一	釜焚二人
公課	二三、八五〇	地租、縣、郡、村稅、
組合費	一八、一五三	
包裝費	二四三、三五三	大俵、中俵、小俵、大繩、小繩
固定資本利子	一八四、六六七	鹽田時價二千四百圓其他ノ資本六百六十六圓六十六錢ノ計三千六十六圓六十六錢
運轉資本利子	三五、〇〇〇	運轉資本五百圓ニ對スル年七朱ノ利子
雜費	二八、七〇〇	酒肴料、賞與金、石殼捨
計	二、一六四、一一〇	
差引	五一、三九〇	利益

備考　本表ハ中等鹽田一戸前即チ一町五反歩ヲ標準トシテ收支ヲ計上シタリ

生產費用ノ明細ハ本年九月七日付提出ノ鹽生產力及生產費調查報告書ト同一ナルニヨリ茲ニハ大綱ヲ示スニ止ム

二十二　其他採鹹煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈其他ニ關シ進步シタル點、改良ヲ要ス可キ點及改良案

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

採鹹及煎熬等ニ關スル方法ハ全國略大同小異ニシテ當地方特殊ノ狀況アルヲ見ス然レトモ之ヲ大體上ヨリ觀察ヲ下シ我國ニ固有ノ他ノ工業ニ比スルトキハ寧ロ進歩シタル點アルヲ認ム即チ左ノ如シ

(1) 採鹹及煎煮作業等總テ分業法ニヨリタル點

(2) 毛細管現象ヲ利用スル目的ニ於テ地盤ノ構成ニ意ヲ用ヒ撒潮ヲ施シ溝潮ヲ張ル等ノ點

(3) 濱曳ヲ爲スニ方リテハ可成日光ヲ受クヘキ撒砂ノ面積ヲ多カラシムル目的ヲ以テ横縦斜等ノ曳方ヲ爲ス點

(4) 操作ノ終始時期ヲ確定シ敢テ緩漫ニ付セサル點

右ノ如ク他ノ工業ニ比シ多少進歩ヲ認ム可ナキニアラサレトモ尚改良ヲ要スヘキ點亦尠カラサル可シ今試ニ二三ノ所見ヲ記センニ

(1) 居出場、貯鹽庫　鹽專賣法實施以來漸次改良シツヽアレトモ未タ以テ完全ノ域ニ達シタリト云フ可カラス改良ノ方法ハ一ニシテ足ラスト雖モ比較的簡便ニシテ結果ノ良好ナリト思料スルモノハ鹽ヲ堆積ス可キ部面ノ地盤數尺ヲ鑿チ之ニ乾燥セル砂ヲ盛リ其上ニ竹簀若クハ間隙アルヘク作ラレタルモノヲ板張ト爲シ且周圍及上部ハ板ヲ張リ空氣ノ流通ヲ少カラシムルト同時ニ汚物ノ混入ヲ防止スルニアリ

(2) 鹹水濾過裝置　當地方ニ於テハ一般ニ鹹水濾過裝置ヲ有セス故ニ鹹水ニ不純物ノ混和セルニヨリ自ラ鹽ノ品質ヲ粗惡ナラシムルノ憾ミアリ鹹水ヲ呼井戸即チ瓢簞ヨリ溫メ釜ニ注入スル時ニ於テ砂濾ヲ爲シタランニハ簡且ツ便ナルヘシト思考ス

(3) 泡沫取除　鹹水中ニ含有セル不純物カ熱度ニ遇ヒテ泡沫トナリテ析出ス之レヲ取除クトキハ自然ニ鹽ノ品質ヲ良好ナラシムヘキハ當然ノ理ニシテ且睹易キ所ナルニ當地方ニ於テハ未タ之ヲ行フモノ極メテ稀ナリ之ヲ施スニハ別ニ何等ノ裝置ヲモ要セス單ニ取柄振ヲ以テ一方ニ集メ取除クヲ以テ足レリトス

(4) 鹹水貯藏池　我國ノ製鹽者ハ概ネ鹹水ノ清潔ヲ保ツヘキ觀念乏シク隨ツテ鹹水貯藏池ノ上ニ席ヲ設ケ之ニ菰、藁、

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

繩等ヲ藏メ又包裝ノ準備操作ヲ爲スヘク構造セラレ之カ爲メニ蘆芽ノ減水中ニ混入シ鹹水ヲ汚穢ナラシメ延イテ鹽ノ品質ヲ粗惡ナラシムルコトヲ意トセサルモノノ如シ之レヲ防止センニハ鹹水貯藏池ノ上ニ席ヲ設クルコトヲ廢止スルカ否ラサレハ蘆芽ノ陷入セサル樣十分ナル設備ヲ爲スヲ要ス

(5) 鹽田內ノ溝渠　當地方ニ於ケル鹽田內ノ溝渠ハ大潮廻リニ於テハ其幅員六尺乃至四尺ニシテ廣キニ過クルノ感アルノミナラス其形狀、波狀ヲ爲セリ之レ溝渠ノ側面ニ何等ノ設備ヲモ爲スコトナク自然ニ崩壞ニ委ネタルカ故ナルヘシ若シ備後地方ニ於テ間々行ハレタル如ク芝朶ヲ材料トシテ溝渠ノ幅員ヲ適當ニ狹クシ且ツ正確ニ爲シタランニハ

（イ）採鹹區域ヲ增加シ　（ロ）田面ノ外觀ヲ美ニシ　（ハ）芝朶カ田面ノ下層ニ潮水ヲ浸入シ易カラシムヘキ媒介トナリ毛細管現象ヲ助長セシメ　（ニ）散砂ノ溝渠ニ陷落ヲ少ナカラシムル（芝朶ニヨリテ溝緣ヲ少シク高クセルニヨリ）ノ利益アリ

(6) 沼井麓部ニ堆積セル骸砂占領面積　沼井麓部ニ於ケル骸砂ノ占領面積少シク多キニ過ク即チ次回ノ持日ニ使用スヘキ撒砂ノ用ニ供センカ爲メニ沼井堀ヲ爲スニ方リ沼井ノ側ニ堆積セル骸砂ヲ鍬ニテ切リ落スハ一般普通ニ行ハル、所ナレトモ當地方ニ於テハ該切落シタル砂ヲ更ニ沼井麓ヲ距ル約三尺ノ所ニ移シ採鹹地域ヲシテ狹少ナラシムルノ習慣アリ之レ單ニ撒布ヲ容易ナラシムルカ爲メナリト云フ若シ之ヲ單ニ沼井麓ニ切リ落シタルニ止ム（他ノ地方ニ於テ行ルヽ如ク）ルトキハ一濱即チ一町五反歩ニ付優ニ九十坪ノ採鹹區域ヲ增加スルニ至ル可シ

(7) 竈ノ構造ト煙突トノ關係及石釜ト鐵釜トノ關係　此ノ關係ニ付テハ大ニ講究スヘキ必要ヲ認メタレトモ目下專ラ試驗中ニ係リ其成蹟ヲ發表スルコト能ハス

第四章　製鹽及副產物ノ種類、用途

一　眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

差鹽　當地方ニ於ケル産鹽ハ普通差鹽ニシテ眞鹽ヲ製産スルコト極メテ僅少ナリ而シテ差鹽ニ於ケル苦汁混和ノ割合ハ鹹水一石ニ付一斗五升七合即チ一割五分七厘ナリ

眞鹽　僅カニ眞鹽ノ製造ヲ爲スハ間々差鹽煎熬竈ノ煙道ニ小釜ヲ裝置シ本釜ノ餘熱ヲ利用シテ製造セラルヽモノアルノミ

今當地方ニ於ケル中等鹽田（一戸前一町五反歩）ヲ標準トシテ通常一ケ年ノ生産量ヲ示セハ左ノ如シ

差鹽	一千七百五十石
眞鹽	六十石二斗一升

二　鹽ノ理化學的性質

當地方ニ於ケル鹽ハ一般ニ灰白色ニシテ結晶ハ普通ナリ其成分タルヤ數種ノ原素ヨリ成レルモノニシテ其主ナルモノヲ擧クレハ鹽素、そぢゆーむ、まぐねしゆーむ、加里等ニシテ其他石灰、酸類、水分等ノ物質ヲ含有ス

然レトモ純食鹽ト稱スヘキハ只鹽素及そぢゆーむ二原素ノ化合物ナリトス而シテ純食鹽ハ鹽素ノ二五、四五ト、そぢゆーむノ二三、〇五トヨリナル故ニ其百分率ハそぢゆーむノ三九、四〇二ト鹽素ノ六〇、五九八ナリ無色透明硝子樣ノ光澤ヲ有ス多ク海水中ニ溶解シテ存在ス其結晶硬度八二、五ナリ無水ノ食鹽ハ大抵六面體ニ結晶ス之レヲ急ニ結晶セシムレハ纖カニ水ヲ吸收シ加熱スレハ潑々ノ音ヲ發シテ飛散ス又攝氏〇以下十度以上ヲ熱スレハ其結晶ヲ崩壞ス其溶解點ハ七百七十二度ニシテ八百五十一度以上ノ溫度ニ於テ空氣ヲ流通セシムレハ甚シク蒸發ス水ニハ溶解シ易ク溫度ニ於テハ大ナル關係ナシ而シテ之レヲ溶解セシムレハ却ツテ其液ノ溫度ヲ降下セシム

實驗ニヨレハ一〇「グラム」ノ差鹽ヲ空氣中ニ放置スレハ五十時間ニ於テ其重量一〇、四七六トナリ更ニ百二十時間ヲ放置スレハ（內降雨時間三十時間）一三、二一三瓦トナル而シテ漸次空氣中ノ水分ヲ吸收シテ液化ノ有樣ニ變ス之レ以上ヲ放置スレハ最早多クノ變化ヲ認メス今該鹽ヲ分析シタル結果ヲ示セハ次ノ如シ

種類	差鹽	眞鹽
水分	一三・〇〇	一二・〇〇
下溶解分	〇・〇五	〇・〇四
含有鹽化曹達量	七三・〇七七	七四・〇〇〇

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

夾雜鹽類　一三・八七三

三　鹽主要ノ用途　主トシテ食用（漬物、味噌、醬油）ニ供セラレ魚類鹽藏用之ニ次キ工業其他ニ使用セラルヽモノハ極メテ僅少ナリ

但シ當地方生產ノ差鹽ヲ醬油醸造ニ使用スルハ當地方產鹽ノ主タル販賣地タル石見、出雲、隱岐、但馬、因幡、伯耆等ニ於テセラレ當地方ノ醬油醸造家ニアリテハ眞鹽ニアラサレハ比較的品質良好ニシテ眞鹽ヲ欺クヘキ惣在所濱生鹽若クハ豐後高田、與原、根石等ヨリ移入シタルモノヲ使用セリ

四　鹽（各等級）ノ容量ニ對スル重量

二　等（一斗當）　十六斤　　三　等（一斗當）　十六斤五分

四　等（同　）　十七斤　　五　等（同　）　十八斤

但一等鹽ハ未タ收納セサルニヨリ其重量ヲ知ルニ由ナシ

五　苦汁ノ用途　當地方ニ於テハ一般ニ差鹽ヲ製造セルニヨリ殆ント出來高ノ全部ヲ之ニ充ツルヲ以テ他ノ用途ニ使用スヘキ必要ヲ生セス偶々煎熬休止ノ場合等多少殘留スルモノアルトキハ之ヲ棄却シ他ノ用途ニ供セシ事實ナシ

六　苦汁利用ノ方法　前項ニ於テ記述シタル如ク苦汁ハ差鹽ニ使用シ以テ鹽生產高ノ增加ヲ圖ルニ止リ他ノ用途ニ使用スルコトナク隨テ其他ノ利用方法ヲ記述スルノ要ナシ

七　苦汁ノ生產量　苦汁生產量　九百七十六石七斗四升（鹽田一戶前一町五反步）

但シ一釜ニ對スル苦汁量ヲ三斗六升トシ一日間ノ煎熬釜數十三釜一年間ノ煎熬日數ヲ二百二十三日トシテ右ノ數ヲ計上シタリ

八　苦汁ノ貯藏裝置及貯藏方法　前項ニ記述シタル如ク差鹽トシテ出來次第漸次使用セルヲ以テ之レヲ貯藏スルノ必要ナク隨テ之カ裝置ヲ爲シ方法ヲ講スルノ要亦ナシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

九　苦汁一石ノ賣買價格　該當記事ナシ

十　苦汁ノ運搬方法及其販路　該當記事ナシ

十一　苦汁ヨリ生スル副產物製造裝置及製造方法　該當記事ナシ

十二　副產物ノ種類、名稱及用途　該當記事ナシ

十三　副產物ノ價格及販路地　該當記事ナシ

十四　鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽產出額及其使用方法　左ノ如シ

名稱	產出額	使用方法	販路	價格
鼠鹽	鼠鹽ト名クルモノナシ			
かいさき鹽	二百貫目	肥料	吉敷郡北部及美禰郡等	十貫ニ付二十五錢
泥鹽	三十貫目	沼井ニテ濾過シ鹹水トナス		
居出鹽	二百貫目	肥料	吉敷郡北部及美禰郡等	十貫ニ付四十錢
釜立鹽	八十五貫目	竈及釜築造用及釜仕入用		

備考　本表ノ數ハ一ケ年ヲ標準トセリ

第五章　鹽ノ包裝及秤量

一　從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量　從來ニ於ケル包裝ハ概ネ左ノ數種ニシテ其容量及重量左ノ如シ

(1)　八升入　二貫百六十目

(2)　一斗入　二貫七百目

(3)　一斗三升六合入　三貫六百七十二匁

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

二　包裝ノ形狀、種類

(1)　包裝種類　俵

(2)　包裝形狀　梅鉢形千鳥掛横繩三ヶ所ニシテ八升及ヒ一斗三升六合入縦繩二本（頬冠）其高サハ八升入五寸五分一斗入六寸五分一斗三升六合入七寸ナリ但一斗入ニハ縦繩ヲ施サス

三　包裝ノ編製方法及其原料

包裝ノ原料ハ藁ニシテ其編製方法ハ藁ヲ小繩ニテ四ヶ所（四符）編ミタルモノニシテ之ヲ鹽俵ト云ヒ編ミタル所ヲ符ト稱ス

四　各種包裝ノ價格

小　俵　一枚ニ付一錢二厘（八升及一斗入ニ用フ）

中　俵　同　一錢五厘（一斗三升六合入ニ用フ）

但價格ハ時ニ高低ノ差異アルヲ以テ玆ニハ普通價格ヲ揭ケタリ

五　包裝ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀、大小等販路先ニヨリ差異動ノ有無

包裝ニ大小數種アルコト及其形狀ハ前項記述セル所ノ如シ而シテ大小ニヨリ販路先ヲ異ニスルコト左ノ如シ

八升入　九州　一斗入　石見、出雲、　一斗三升六合入　隱岐、伯耆、但馬、因幡、丹後、加賀

六　包裝ニ附記スル商標其他記號ノ種類、形狀、大小等

當地方ニ於テハ各濱トモ包裝ノ側面上部ニ一ノ記號ヲ施セリ各濱多少其趣ヲ異ニス即チ左ノ如シ

青江、花香、中津江、長濱ニ於テハ孰レモ其外形分銅形ニシテ其內方上部ニハ濱名ノ冠字（花香濱ナレハ「花」ノ字）其下部ニハ漢字又ハ平假名若クハ片假名ニテ屋號ノ冠字（松屋ナレハ（松）「ま」「マ」）

大海、南鶴濱ニアリテハ分銅形ノ上部ニハ漢字ニテ濱名ノ冠字、下部ニハ釜屋番號ノ冠字（五番濱ナレハ五ノ字）

遠浪濱ニアリテハ分銅形ヲ横置シ其右方ニハ平假名ニテ「と」ノ字左方ニハ釜屋番號ノ冠字（十番ナレハ「十」ノ字）

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

惣在所濱ニアリテハ外形瓢箪形ニシテ其内方下部ニ釜屋番屋ノ冠字（前鹽屋ナレハ「前」ノ字）惣在所ヲ通稱瓢箪濱ト唱フルハ蓋シ此ノ記號ヲ使用スルニ基因スルモノナラン

右ハ孰レモ烙印シテ押捺スルモノトス

大里濱ハ從來散鹽ニテ賣買シ來リシヲ以テ記號等ヲ用ヒシコトナシ

七　秤量器（桝）ノ種類、形狀、大小及材料　種類ハ各戶一定セスト雖トモ概ネ五升、四升五合、四升三合、四升、三升五合等ヲ用ヒ材料ハ杉材トス（圖面參觀）

第六章　貯藏方法

一　倉庫ノ構造、大小及壁床ノ構造

(1)　構造　木造瓦葺

(2)　大小　間口二間　奥行五間

但シ倉庫内ニ一ノ區劃ヲ設ケ其前方ヲ前倉（四坪）ト云ヒ後方ヲ奥倉（六坪）ト云ヒ

(3)　壁床　壁ハ内外トモ板張ト爲シ床ハ奥倉ニアリテハ概ネ地盤ニ砂石ヲ盛リ其上ヲ板張ニ爲セリ前倉ハ竹簀ヲ敷ケリ之レ奥倉ハ貯鹽ニ使用シ前倉ハ包裝ヲ施シタルモノヲ假リニ積置ク所ナルヲ以テナリ當地方ニ於テハ從來概ネ居出場ニ於テ包裝ヲ施スヲ常トシ買船ノ入津絶ヘ止ヲ得サル場合ニ於テノミ立鹽ト爲スモノニシテ改良ヲ目的トシテ貯藏スルモノナカリシカ鹽專賣法發布以來此目的ニ於テ貯藏スルノ必要ヲ認メ現ニ實行セラレツヽアリ此ノ如キ狀況ナルニヨリ從來ニ於テハ貯藏庫内ハ普通土間ニシテ何等ノ設備ナカリシカ鹽專賣法實施後勸誘ト必要トニヨリ床板ヲ設備シタルモノニシテ是レ即チ貯藏ノ目的ヲ異ニスルカ爲メ生スル結果ニ外ナラス

二　貯鹽方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態　貯鹽ハ總テ散鹽ノ儘貯鹽庫ノ床上ニ堆積スルモノニシテ別ニ何

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

等ノ手續ヲモ要セス又包裝ノ上貯藏スルカ如キコトナキヲ以テ期間ノ經過ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態ヲ知ルコトヲ得ス

三　俵裝ノ大小ニ依リ積揚ノ高サ若クハ俵數及積揚方法

一斗入及八升入　八俵積
一斗三升六合入　六俵積　積揚方法ハ縱一直線ニ併列ス

四　一年間ニ於ケル直鹽、差鹽ノ各貯藏歩減及各滴出苦汁量　當地方ニ於テハ前項ニ於テ記述セル如ク從來多クノ場合ハ居出場ニ於テ直ニ包裝ヲ施シ立鹽トナスコト稀ニシテ時ニ一年間更ニ立鹽ト爲サヽルコトナキニアラス今數年間ノ平均ニヨレハ立鹽トナスヘキモノハ全生產額ノ四分ノ一内外ニ止リ貯藏期間長クモ三十日ヲ出ルコト稀ナリ今其歩減ヲ算出スルコト左ノ如シ

十日間ニ於テ百分ノ五、二十日間ヲ經過セハ百分ノ八、三十日間ヲ經過セハ百分ノ十

但シ眞鹽ハ主トシテ地方ノ零賣ニ供セラレ賣行頻繁ナルヲ以テ貯藏ノ實例ナシ隨テ量減ヲ計上スルコト能ハス又量減ノ度合ハ時ニヨリ高低アリ即チ空氣中ニ濕氣多キトキハ量減多ク其否ラサル時ニ於テ寡シ故ニ梅雨中ヲ以テ殊ニ量減多キ時トシテ販路ノ最モ鈍キ時季トス

貯藏中ノ滴出苦汁量ニ至リテハ之ヲ算出スヘキ材料ノ徵スヘキモノナシ依テ之ヲ揭示スルコト能ハス

五　苦汁ノ採取方法及貯藏裝置　貯鹽庫ノ床ハ前項ニ於テ記述セルカ如ク板張ニシテ其ノ下ニハ砂石ヲ盛リ以テ垂下シタル苦汁ハ土砂ノ吸收ニ任スヘク構造セラレ別ニ採取ノ方法ヲ講シ之カ裝置ヲ施スコトナシ

六　古積鹽ノ製造方法、製造期間ニ於ケル鹽歩減ノ割合　該當記事ナシ

七　古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床、四壁ノ構造　該當記事ナシ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第七章　鹽ノ販賣

一　從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法　當地方ニ於ケル各濱生產鹽ハ前項ニ於テ記述シタル如ク主トシテ九州若クハ山陰道ニ供給シ時ニ產地ノ仲買人ニ於テ其計算ヲ以テ廻送販賣スルコトナキニアラサレトモ多クハ需用地ノ船舶自己ノ計算ヲ以テ回船取引ヲ爲セリ而シテ是等ノ顧客ハ多分從來ノ取引關係ニヨリテ引續キ取引ヲ爲スモノ所謂得意先ニシテ新規ノ賣買取引ハ稀ニ見ル所ナリ

鹽ノ賣買ニ付テハ賣手側（問屋）ヨリ別ニ働掛ノ手續ヲ須ヒス買手（船）ニ於テ出帆港若ハ途中碇泊港ヨリ一片ノ回船ノ案內狀ヲ發スル外時ニ價格ノ問合ヲナスコトアルニ過キスシテ其賣買以前ノ手續ハ甚タ簡單ナリ而シテ其入津スルヤ問屋（各濱トモ一戶若ハ二戶アリ）ニ就キ賣買定約ヲ取結フモノニシテ既ニ賣約結了セハ問屋ニ於テ鹽ノ出來高ニ比例シテ各釜屋ヘ賣渡俵員ノ配當及一包裝ノ入味幷ニ受渡ノ日時等ヲ通告ス受渡ノ日時ニ至レハ買主問屋賣主立會各釜屋ニ於テ秤量ノ上之カ受渡ヲ爲シ受渡終レハ現品ハ艀ニヨリ本船ニ移サル斯クシテ約定ノ員數ヲ積ミ終レハ問屋ニ於テ代金ノ授受ヲ爲ス（之ヲ仕切ト云フ）而シテ問屋ハ其代金ヲ鹽田組合會所ニ引渡シ會所之ヲ各製造人ニ分配スルモノトス鹽代金ノ定メ方ニ關シテ別項ニ記述スル所ノ如クニシテ之ヲ遵守セサルヘカラサルハ勿論ナレトモ玆ニ一ノ例外アリ即チ煎熬戶數ノ五戶ニ達セサル場合之レナリ此ノ場合ニ於テハ各製造人ハ各自隨意ニ價格ヲ取究メ賣買取引ヲナスコトヲ得

又問屋ヨリ分配セラレタル俵仕舞ハ製鹽ノ存セル限リハ各製造者之ヲ辭スルコト即チ賣渡ヲ拒絕スルコトヲ得スト雖トモ立鹽ニ付テハ問屋ノ通告ニ覊束セラルヽコトナシ

以上ハ船手ニ關スル賣買ノ關係ニシテ以下陸上賣買ノ事ヲ記述センニ

所轄內各濱中靑江、花香、中津江、長濱ノ如キハ全然船手賣買ヲ營ミ陸上ノ賣買ヲナサス陸上ノ賣買ハ其他ノ濱即チ大海總在所、南鶴、遠浪、大里等ノ各濱ニ於テ行ハレ就中大海、南鶴、遠浪、三濱ノ陸上賣買ノ額ハ全生產額ノ二三割ニ過キスシテ他ハ船手賣買ニヨルモ大里、惣在所ニ至リテハ其全部ヲ陸上賣買ニ付セリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

陸上賣買ニ於ケル購買者ハ概ヲ左ノ五種ニ分ツコトヲ得ヘシ

(1) 卸賣ヲ目的トスルモノ　(2) 小賣居商ヲ目的トスルモノ

(3) 小賣行商ヲ目的トスルモノ　(4) 直接需用者

(5) 醬油ノ醸造ヲ目的トスルモノ

右ノ內(3)(4)(5)ノ三者ハ主トシテ大里、惣在所ノ兩濱ニ於テ取引ヲナシ而シテ陸上賣買ハ別ニ問屋ノ手ヲ經ス各濱製造場ニ於テ製造者ト直接取引ヲ爲スモノニシテ直接需用者ノ如キハ概ネ薪炭蔬菜等ノ物品トノ交換ヲ爲セリト云フ

二

鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法、船員ノ給料、船頭ト鹽商トノ關係　鹽ヲ賣買スル船頭ノ鹽賣買ニ關スル習慣ニシテ絶體的ノモノアルコトヲ聞カサレトモ船頭カ自己ノ計算ニヨリ鹽ノ賣買ヲ爲スモノニアリテハ格別其否ラサルモノヽ間即チ雇船頭等ニアツテハ徃々ニシテ左ノ惡習慣ノ行ハルヽコトアリシト云フ

(1) 問屋ト共謀シテ仕切書面ノ金高ヲ實際ヨリ過大ニシ其ノ差額ヲ荷主ヨリ騙取スルコト

(2) 各俵ノ鹽ヲ少許ツヽ抜取ルコト

(3) 船主又ハ荷主ヨリ指定セラレタル俵員ノ外自己ノ計算ニヨリ若干ノ鹽ヲ買入之ニ對スル運賃及相場上ノ利益アラハ之ヲ得ルコト

但シ船主ニ於テ默認スルコトアリ

(4) 買受鹽千俵ニ對シ五俵ツヽヲ鹽製造人ヨリ贈與ヲ受クルコト

鹽ノ賣買及運搬ノ方法ニ關シテハ別項記述セル所ノ如シ

船員ノ給料ハ左ノ如シ

船長　二十圓內外(相當免狀ヲ有スルモノ)　水夫　五圓乃至八圓

船頭ト問屋トノ間ニ於テハ賣買關係ノ外特別ナル關係ノ存スルモノアルヲ聞カス只徃々信用厚キ船頭ニ對シテハ問屋ニ於

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

テ鹽代金ヲ貸シ渡スコトアリト云フ此場合ニ於テハ各製造人ニ對シテ問屋ヨリ立替支拂ヲ爲スモノトス

三　從來ニ於ケル鹽ノ販路　鹽ノ販賣地ハ已ニ第五項第五ニ於テ記述セシ所ニシテ即チ左ノ如シ

九州、石見、出雲、隱岐、伯耆、但馬、因幡、丹後、加賀及當地方ナリトス

用途ヲ定メテ製鹽ヲ注文スルモノナシ

四　鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約幷ニ償却ノ方法　從來ニ於テハ往々ニシテ鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スル習慣アリ幷ハ將來生產スヘキ鹽ノ前賣買ヲ爲スニアリテ其ノ價格ノ定メ方ニアリ一ハ鹽引渡當時ノ普通價格ヨリ普通一割引（融通金ノ利子ニ充當ス）ニハ引渡ノ時ヲ期シ豫メ價格ヲ協定スルモノニシテ此契約ハ常ニ問屋ヲ介在シテ締結セラル而シテ右第一ノ場合ニハ鹽引渡ノ時ニ於テ差引計算ヲ要スルモ第二ノ場合ニハ單純賣買ニシテ金錢上事後ノ關係ヲ生スルコトナシ

五　從來ニ於ケル鹽ノ濱相場、小賣價格　（三十七年以前三ヶ年間）

年別	價格			
	一石		一升	
	價	宛		宛
三十五年	十二圓七十錢		一錢四厘	
三十六年	十二圓三十錢		一錢四厘	
三十七年	十三圓		一錢四厘	

六　鹽價ノ定メ方　鹽價ハ青江、花香、中津江、南鶴、遠浪濱ノ如ク組合ヲ組織スルモノニアリテハ組合會所ニ各濱頭取集會ノ上天候、他所ノ相場、入津、船舶ノ多少等ヲ參酌シテ一週間毎ニ定ムルモノトス

但シ本船入港ノ便否ニヨリ各濱間鹽ノ價格ニ多少ノ差アリ即チ長濱、花香、中津江、濱ハ立相場通リ南鶴、一步五厘青江、遠浪ノ兩濱ハ一步引ト爲セリ

其他組合ノ設ケナキ濱ニアリテハ普通前記五ヶ所鹽田組合ノ立相場ヲ標準トシテ取引ヲ爲シタリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

七 販賣ノ季節　鹽ノ賣行最モ良好ナルハ陰曆六、七、八ノ三ケ月ニシテ九、十一ノ兩月之ニ次キ最モ不良ナル時季ヲ四五、十月ノ三ケ月ナリトス惟フニ四月ハ梅雨前五月ハ梅雨中ニシテ鹽ノ量減多ク且ツ用途寡ナク十月ハ農家多忙ノ秋ト漬物季ニ尚早キカ故ナルヘシ

八 鹽ノ俵扱檢査ノ方法　可檢俵ノ撰擇ハ單ニ買主ノ自由ナル意思ニ一任セリ故ニ普通居出場ノ側ラ前居出ニ堆積シアル俵員ノ中ヨリ適宜之ヲ扱取ルモノトス往時ニアリテハ最下層ノ一俵ハ可檢物ト爲サヽルコトヽナリ居リシカ近時ニ至リ此習慣ハ自然廢セラルニ至リタリ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置　步減ヲ察シテ容量及重量ヲ增スノ習慣ナシ若シ秤量上步減ヲ生シタル場合ニ於テハ合勘即チ不足ノ數量ヲ補足スルコトヽナレリ然レトモ輓近ニ於テハ步減ヲ生シタル場合ニ於テハ步減ノ多寡ニヨリ即チ步減一合ニ付一厘ノ科料ヲ濱子(仕舞責任者庄屋)ニ科スルコトヽナシタルニヨリ實際ニ於テハ步減ヲ來シタル事例極メテ稀ナリト云フ

當地方ニ於テ一般ニ呼稱量ト實容量トハ同一ニシテ其間差アルコトナシ只量者ノ巧拙ニ依リテ非常ノ懸隔アルノミ然レトモ立鹽ニアリテハ呼稱量ト實容量トヲ異ニセリ此場合ニハ一斗入ニ於テ二合、一斗三升六合入ニ於テ三合ヲ減シ包裝ヲ施セリ之レ立鹽ハ枡入多ク隨テ重量多キカ故秤量上合勘ヲ生スルコトナキカ爲メナリト云フ

第八章　鹽運搬ノ方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量　當地製鹽ハ殆ント海路ニヨリ運搬セラレ陸路ニヨルモノハ極メテ少數ナリ

海路運搬ハ概ネ帆前船或ハ和船ニシテ汽船積ハ絕エテナシ

積載數量ハ船舶ノ大少ニヨリ一定セス而シテ其容積ハ百石乃至千石ナリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

陸上運搬方法ハ左ノ如シ

(1) 馬車　(2) 大八車　(3) 馬脊　(4) 人肩

陸上運搬方法ニ依レハ積載量亦タ固ヨリ其數ヲ同フセス

馬車　七石　大八車　三石　馬脊　一石四斗　人肩　六斗

二　各種運搬方法ニヨレル各運搬先迄ノ鹽一定量又一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料、諸掛費、保險料、着荷地ニ於ケル諸掛費用等

仕向地	一俵容量及運賃	手數料	出荷地解	其他ノ諸費	着荷地解諸掛	保險料
石見	一斗入 二錢五厘	原價三分	一俵ニ付壹厘	菰合勘一俵ニ付五毛 濱堀費鹽原價百圓ニ付三十錢		
出雲	同 三錢	專賣法實施後通常一分乃至一分二厘ヲ超ユルモノナシ尚常得意ニ至リテハ之ヲ半減セシモノアリ	同 同	同 同		
伯耆	一斗三升六合入 三錢五厘		同 同	濱堀費原價百圓ニ付三十錢		
隱岐	同 同		同 同	同 同		
因幡	同 四錢		同 同	同 同		
但馬	同 同		同 同	同 同		
丹後	同 同		同 同	同 同		
加賀	同 四錢五厘 八升入		同 同	菰合勘一俵ニ付五毛 濱堀費原價百圓ニ付三十錢		
九州	一錢三厘五毛					

鹽運賃ト其他ノ運賃トノ間ニ差異ナシ

着荷地ニ於テハ或ハ解賃ヲ要スヘキ所ト要セサル所トアルヘシト雖モ仕向地港ノ多キ一々調査スルコト能ハサルニヨリ之

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ヲ省略ス

又當地方ヘ航海スル船舶ニアリテハ海上保險ヲ附シタル例ナシ專賣法實施後保險ヲ附セントシテ奔走シタルモノアレトモ保險責任ヲ受負モノナシト云ヘリ

第九章　小作人ト地主トノ關係

一　小作人ト地主トノ關係　地主ト小作人トノ間ニ成立セル小作契約ハ千差萬別區々トシテ一定セスト雖モ今其概要ヲ示セハ左ノ如シ

(1)　小作契約ノ存續期間　有期ノモノト無期ノモノトアリ

有期ノモノニアリテハ一年乃至五年トス

無期ノモノハ豫告ヲ以テ當事者相方ヨリ取消スコトヲ得

(2)　保證金　小作料支拂ノ擔保トシテ地主ニ對シ保證金ヲ提供スルコトアリ此額ハ百圓乃至三百圓トス

(3)　小作料　ハ鹽田ノ良否ニヨリ固ヨリ高低ノ差アリ小作料ハ金錢ヲ以テ定ムルモノト鹽ヲ標準トシテ定ムルモノトアリ此場合ニ於テハ時價ニ換算シテ支拂フモノナリ故ニ專賣法實施以前ニアリテハ小作料ノ額ハ鹽價ノ高低ニヨリ自ラ相異レリ今日ニ於テモ等級ノ異ナレルモノヲ產出スルコトアルトキハ同樣ナリトス

又中ニハ豫メ小作料ヲ定ムルコトナク年ノ豐凶ニヨリ修業ノ際當事者之ヲ協定スルコトアリ

小作料ノ額ハ概ネ左ノ如シ

金錢ヲ標準トシテ定ムルモノ二百圓乃至五百圓

鹽ヲ標準トシテ定メタルモノ百五十石乃至四百石

(4)　小作料支拂時期　毎月末ニ支拂フモノアリ二ヶ月又ハ三ヶ月毎ニ支拂フモノアリ又一季間二回若クハ三回ト定ム

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

ルモノアリテ一樣ナラス

(5) 機械器具　採鹹及ヒ煎熬ニ要スヘキ一切ノ諸機械器具ハ契約當時地主ヨリ小作人ニ貸與シ之カ補充修繕等ハ總テ小作人之ヲ負擔シ小作契約解除ノ時ハ契約當時受渡ヲ爲シタルトキ略同一程度ノモノヲ返却スルヲ以テ足レリトス

(6) 公課　全部地主ノ負擔トス

(7) 建物及地場修繕　建物及地場ノ大修繕ハ地主ノ負擔ニ屬シ小修繕ハ普通小作人ノ負擔ニ屬スレトモ亦タ地主ニ於テ負擔スルコトアリ

(8) 勞銀及組合費幷ニ消費物　總テ小作人ノ負擔ニシテ地主ヨリ日用品ノ供給ヲ受クルカ如キコトナシ

今當地方ニ普通ナル契約ノ全體ヲ示セハ左ノ如シ

鹽田小作證書

秋穗村大字東本鄕、花香（濱何屋百四十臺半）

建物九棟幷ニ鹽田附屬品悉皆、諸器械ハ別紙ノ通リ

此小作料一年ニ付食鹽五百石尤モ食鹽ハ毎年五月ヨリ十一月迄七ケ月間毎月一日、十六日ノ鹽相場ニテ現金ヲ以テ毎月末日迄ニ納メ方可致候事

但シ五月ヨリ十月迄六ケ月間月別八十石宛十一月ハ二十石ノ割合ヲ以テ納付方可致候事

前記鹽田前記ノ小作料ヲ以テ拙者小作致候ニ付キテハ拙者幷ニ保證人ノ確守スヘキ條項左ノ如シ

一、小作年限ハ明治卅四年ヨリ卅六年滿三ケ年ノコト

但シ此期限ハ双方ノ利益ノ爲メ設定シタルモノトス

一、鹽田ニ關スル諸規則ハ固ク相守可申候事

一、小作料ハ鹽田ノ豊凶ニ關セス皆納スルモノトス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一、肥シ土ハ四十萬斤トシ代金ハ地主ノ負擔トス

一、建物ノ屋根ノとじ沼井ノ戸相板、差替板、腕掛莚大坪しめ掛同掛莚其他ノ小修繕ハ悉皆地主ノ負擔トス

一、樋普請ハ小作人ノ負擔トス

一、建物火難ニ罹リタル節ハ小作人ヨリ新築ノ上地主ヘ返上ノコト

一、會所費用及石殻捨其他鹽田ニ關スル費用ハ悉皆小作人ノ負擔トス

以上九項ノ條件ノ內一項ニテモ違背シタル時ニ小作權ヲ失ヒ且ツ兼テ枕金トシテ納メ置キタル金圓ハ御返却ニ相成ラサルハ無論鹽田ニ關スル諸拂ハ悉皆小作人ヨリ拂方致シ鹽田ニ附屬スル諸物品及立鹽、鹹水、石炭、繩、菰其他鹽田ニ有リ掛リノ總悉皆、損害賠償トシテ地主ヘ引渡シ尚又前記小作料悉皆小作人ヨリ納メ方可致候萬一小作人一廉ニテモ違背シ又ハ納金ヲ延滯スル時ハ保證人ハ本人ト連帶ノ責ニ任スルモノトス

右ノ條項ヲ承諾シ左ニ署名捺印ス

何縣郡町村番地

氏　　名印

同

證人　氏　　名印

年　月　日

地主　　殿

第十章　組合

一　鹽製造組合ノ組織、規定、沿革　管內青江、花香、中津江、長濱、南鶴、遠浪ノ六濱聯合シテ吉敷郡五ケ所ト稱ヘ鹽

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

田組合ナルモノヲ組織セリ其規約書ニ依レハ即チ製鹽及販賣ニ關スル組合ト認ムヘキモノニシテ其規定別冊ノ通リ本組合ノ組織セラレタル沿革ヲ探ヌルニ所轄内、花香、中津江、長濱ノ三濱、青江、遠浪ノ兩濱ハ略其販路ヲ同一ニセリ然ルニ是等各濱ノ産鹽ハ品質畧同一ニシテ各濱間ノ距離亦タ遠カラサルニ鹽價區々ニシテ一定セサルニ於テハ時ニ各濱ノ間ニ競爭ヲ招キ自滅ニ陷ルコトアリ又常ニ買主カ天秤政略ヲ恣ニシ與フニ掛引ノ餘地ヲ以テスルノ不利益アルニヨリ之ヲ救濟スルノ目的ヲ以テ明治二十七年初メテ此組合ノ組織ヲ見ルニ至リタリト云フ

吉敷郡五ヶ所鹽田組合規約

第一章　名稱

第一條　當組合ハ五箇所鹽田組合ト稱ス

第二章　地區

第二條　當組合ノ地區左ノ如シ

青江、花香、中濱、長濱、遠浪濱、南濱

第三章　組織

第三條　當組合ハ五箇所間ニ於テ鹽田ヲ所有スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第四章　大會所及會所ノ位置

第四條　當組合ノ大會所ハ秋穗浦ニ設置シ各所會所ハ便宜之ヲ設置スヘシ

第五章　綱領事業

第五條　本組合ノ業務ハ製鹽業及製鹽賣捌キノ事ヲ管理ス

第六條　當組合ハ五箇所鹽業者ノ氣脈ヲ通シ鹽業上ノ福利ヲ增進シ粗製濫造ノ弊害ヲ矯正シ專ラ改良ヲシ以テ永遠維持ノ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

方法ヲ計畫スルモノトス

第七條　採鹽作業方法及ヒ營業期日ハ地主總會ヲ開キ之ヲ定ム

但シ南ノ前濱ハ營業日數前十日後十五日ヲ附與ス

第六章　役員及選擧法

第八條　當組合ノ事務ヲ整理スル爲メ左ノ役員ヲ置ク

頭取　一　名　　ヶ所頭取　五　名

第九條　頭取ハ五ヶ所鹽田ヶ所頭取ヨリ投票ヲ以テ之ヲ定ム

但シ箇所頭取ニ當選シタル時ハ其箇所ニ於テ後任者ヲ選出スルモノトス役員當選者ニシテ故ナク辭スル事ヲ得ス

第十條　箇所頭取ハ箇所ニ於テ之ヲ定ム

第七章　役員ノ任期及ヒ職制

第十一條　頭取在職任期ハ二ヶ年トシ箇所頭取ハ一ヶ年トス

但シ滿期再選スルモ妨ケナシ

第十二條　頭取ハ當組合全體ノ事務ヲ總理スルモノトス

第十三條　頭取事故アルトキハ各箇所頭取ノ年長者ヲ以テ代理スルモノトス

第十四條　個所頭取ハ其箇所ヲ監督シ及ヒ頭取ヲ補翼シ組合全體ノ事務ニ參與スルモノトス

但シ事故アルトキハ代理人出席スルヲ得

第十五條　役員ハ總テ名譽職トス

第十六條　頭取個所頭取ノ報酬左ノ如シ

頭取報酬金十圓個所頭取五名同金二十五圓

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第八章　會議

第十七條　會議ハ通常臨時ノ二種ニ分テ通常會ハ春秋ノ兩度ニ之ヲ開キ臨時會ハ本業上事件アル毎ニ之ヲ開ク

第十八條　通常會ハ開會期日五日前頭取ヨリ各個所頭取へ通牒スヘシ

第十九條　通常會ノ議員ハ當組合員全員トス

第二十條　通常會ハ組合員過半數出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但シ都合ニ據リ各箇所一名出席スルトキハ過半數ニ充タサルモ開會スルモ妨ケナシ

第二十一條　臨時會ハ箇所ノ申出ニヨリ之ヲ開ク尤モ出席員ハ各箇所頭取出席スルモノトス

第二十二條　通常會ノ議案ハ頭取之ヲ發ス

第二十三條　通常臨時會ノ議長ハ頭取ヲ以テ議長トス

第九章　食鹽販賣法

第二十四條　鹽直段ハ總テ大會所ニ於テ決定スルモノトス

第二十五條　鹽仕舞左ノ如シ

一斗四升入

一斗三升六合入

一　斗　入

九　升　入

八升六合入

但シ右仕舞ノモノニ限リ印鑑ヲ渡スモノトス

第二十六條　賣鹽歩入ハ左ノ如シ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

普通歩入ハ四歩灘鹽五厘入トス定船歩入ハ二航海目ヨリ一歩三航海目ヨリ二歩三航海以上ハ幾回航海スルモ毎回二歩入

第二十七條　定船歩入ハ箇所全體ノ負擔トス

第二十八條　鹽買出證ヘハ必ス箇所頭取ノ認印ヲ捺入セル物トス

第二十九條　缺桝ノ差左ノ通リ

一斗三升六合以上中俵仕舞四合缺以上倍缺以下現缺桝ヲ交付ス一斗入三合以上倍缺以下現缺桝ヲ交付ス九桝入八桝六合入四合缺以上倍缺以下倍缺ナシ

其外「カスリ」仕舞ハ倍缺ナシ

第三十條　相場實價ヨリ歩下ケ箇所左ノ如シ

青江濱、遠浪濱兩所ハ一歩南濱ハ二歩

第三十一條　地所鹽ヲ取寄セ本所ノ俵仕立ニ僞造シ賣買スルヲ許サス

第三十二條　粗製濫造ノ爲メ劣鹽ヲナス時ハ其俵造悉皆必ス切リ放ツモノトス

第十章　費用賦課徵收

第三十三條　當組合大會所ノ費金ハ五箇所鹽田地價反別ニ折半シ賦課徵收スルモノトス

第十一章　會計

第三十四條　前年度ニ於ケル經費ノ收支幷ニ表信金ノ決算ハ毎年通常春會ニ於テ報告スヘシ

第三十五條　年度ノ豫算ハ通常春會ニ於テ決議ス

第十二章　表信金

第三十六條　鹽田維持ノ爲メ表信金トシテ鹽田一戸ニ付金若干宛毎年出金シ積立スルモノトス

第三十七條　表信金ハ頭取ノ名義ヲ以テ之レヲ銀行ヘ定期預ケトナシ置クモノトス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

但シ利息ハ毎年元金ヘ編入スヘシ

第三十八條　表信金ハ爾後鹽田賣買又ハ譲渡スルモ其濱ノ名稱アル限リハ其濱ニ附帶ス依テ前持主ノ出金ト雖モ後受者ニ附續スルモノトス

雜則

第三十九條　頭取ヘハ箇所頭取ヨリ箇所頭取ヘハ箇所地主ヨリ夫々五箇所組合一定ノ書式ニ據リ委任狀ヲ差出スモノトス

第四十條　臨時會出席員ハ日當金ヲ支給ス

但シ日當金ハ春期通常會ニ於テ之ヲ決ス

第四十一條　鹽田ヲ賣買讓與シタルモノハ箇所頭取ヲ經テ頭取ヘ届出スヘシ

第四十二條　雇人ニ對シ私カニ格上ケ亦ハ多額ノ心附ヲナスコトヲ許サス

第四十三條　鹽田ヲ小作セムトスルトキハ必ス左ノ件々記入シタル預リ證書ヲ受取置クモノトス

一五箇所鹽田組合ノ諸規約ヲ遵守スル事

一總テ會議ノ決議條件ヲ遵守スル事

一開業日數ノ伸縮ニハ絶テ苦情申間敷事

第四十四條　當組合規約ハ通常會ノ決議ヲ經ルニ非ラサレハ變更スルヲ得ス

第四十五條　鹽業者ト製鹽賣捌問屋トハ關係ノ最大ナルモノハ勿論ノ事ニ付キ本規約ヲ實施スルニ當リ各問屋業者ニ於テ或ハ競爭ニ移ラサル樣別ニ問屋取締規則ヲ設ケ置クヘシ

第四十六條　當組合規約幷ニ通常臨時二會ノ決議條項ニ違反アリト認タル者ハ箇所頭取ニ届箇所頭取ヘ通諜スヘシ

第四十七條　違約金ヲ徵收シタルトキハ通常會ノ意見ニ依リ方法ヲ設クヘシ

賞罰

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

第四十八條　本組合ハ有益ナル事業ヲナシタルモノニハ相當ナル賞與ヲナスモノトス

第四十九條　組合役員ニシテ特別効勞アルモノヘハ會議ニ附シ賞品ヲ附與スヘシ

第五十條　各濱傭人ニシテ他ノ模範トナル行爲アルモノニハ組合ヨリ賞狀又ハ賞金ヲ附與スルコトアルヘシ

第五十一條　組合役員ニシテ不正ノ行爲アルト認ムルトキハ其事實ヲ取糺シ會議ノ上處分スヘシ

第五十二條　期日外ニ渉リ採鹹ニ類似シタル行爲ヲナシタルモノハ會議ニ附シ金三十圓以下ノ科料ニ處ス

第五十三條　土井垂シ製鹽ハ堅ク禁ス

但シ其濱一戸分ヲ使用スルハ此限ニアラス尤モ本條ノ爲ニ釜屋ヲ他人ヘ貸與スル事ヲ許サヽルモノトス

第五十四條　本組合規約及春定メ規則其他申合決議ニ違犯セシモノハ三十圓以下ノ違約金ヲ科ス

但シ事ノ大小輕重ニ據リ頭取會ニ於テ之ヲ處決ス

第五十五條　大會所會議ヘ故ナク出會セサルモノハ過怠金トシテ一日金一圓ヲ科ス

但シ過怠金取立方ハ其箇所ヨリ取立スヘシ

第五十六條　雇人ニ對シ私カニ格上亦ハ多額ノ心附ケヲナシタルモノハ事ノ輕重ニ據リ二十圓以下科料ニ處ス

一明治何年度濱子其他雇人ニ付濱子總代ト契約ノ件參考各會所ト濱夫總代契約書式

約定證

一明治何年度月給飯米ノ定額左ノ如シ

上濱子	約米九斗五升	飯米玄米一口七合二勺	
上脇	同 八斗三升六合	同	上
三番	同 七斗六升	同	上
炊キ	同 六斗八升四合	同	上

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

但シ本三番追廻シノ名稱アル濱々ニ於テハ定額ノ中間ヲ取リタテ以下ハ四捨五入ノ算出ヲ以テ可相定事

一明治何年釜焚日給米左ノ如シ

日釜　日給米二升七合五勺

夜釜　同　米二升五合

但シ持始前持止後ハ別ニ賃錢ヲ相定ムル事

一明治何年營業中各會所諸規則遵守可致候事

一營業期間ニ於テ物價騰貴其他何等ノ事故ニ拘ラス給料ノ增額申出間敷候事

一米和市ハ毎月馬關物價日報社中米格附相場一ケ月間ノ平均ヲ算出シ御決定相成ルヘク事

一營業上仕役方ハ濱子春定メ規約ヲ遵守シ貞實ニ勤働可致候事

一營業期間中兵役ニ應徵及ヒ難治ノ疾病ヲ除ク外自己ノ便宜ニヨリ半途解雇ヲ申間敷候事

一營業中自己ノ便宜ニヨリ又ハ些少ノ病氣等ヲ口實トシテ半途解雇ヲ乞フトキハ給料ノ三割引ニテ御計算可被成候事

一計算不始末ノ儘甲濱ヨリ乙濱ニ轉シタリトキハ前雇主ヨリ借越金ヲ乙濱ニ於テ差押ヘ相成共異存申間數候事

一働キ期間中逃走ヲナシ又ハ他人ヲ敎唆シテ逃走ヲ企テタルトキハ雇主ヘ對シ損害賠償ノ責ニ任シ可申候事

一各會所及雇主ノ指揮ニ背キ不都合ノ行爲アルトキハ本所内濱働キ停止相成共否申間數候事

右ノ條々雇入一同ニ代リ拙者共約定候處相違無之候也

上濱子總代連署

濱子釜焚ヨリ上濱子へ與フル委任狀

委任狀

拙者等多人數ノ儀ニ付何ノ誰ヲ以テ部理代人ト相定メ拙者等ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一明治何年度給金請求方ノ件
一明治何年度給料決定ノ件
一明治何年度何屋濱營業中働キニ關スル諸般ノ件
一明治何年度濱子總代撰定ノ件
一働キ契約間逃走ヲ爲シ又ハ他人ヲ敎唆シテ逃走ヲ企テタル時ハ傭主ヘ對シ損害賠償ノ事
一貴殿義病氣事故アルトキハ同人再ヒ他人ヘ委任スルノ件

右代理委任狀依テ如件

年號月日

上濱子ヨリ濱子總代ニ與フル委任狀

委任狀

拙者義多人數ノ義ニ付キ何ノ誰ヲ以テ部理代人ト相定メ拙者等ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

一明治何年度給料決定及ヒ之ニ關スル大會所トノ約定書ヘ調印ノ件
一明治何年度中營業上ニ關スル仕役勞働及萬般ノ契約ヲ大會所トノ間ニ於テ約定スル件
一明治何年中若シ勞働半途ニテ逃走等ヲ爲シタル時損害賠償ニ關スル契約訂結ノ件

右代理委任狀依テ如件

月日

書式

頭取委任狀書式

委任狀

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

今回貴殿ヲ頭取ニ撰擧致候ニ就テハ本組合規約ニ依リ鹽務上百般ノ件御整理被成下度依テ委任狀如件

年　月　日　　箇所頭取　署名　印

頭取　宛

箇所頭取委任狀書式

今回貴殿ヲ箇所頭取役ニ撰擧候ニ付五箇所會議ニ參與セラレ鹽務上及ヒ百般ノ事御取計相成度仍テ委任狀如件

年　月　日　　地主　連署　印

箇所頭取宛

鹽田買讓受届書式

何國何郡何村大字何番何屋濱

一鹽田何町何反何畝歩

地價何百何十圓

右ハ何國何郡何村何ノ誰所有ノ鹽田今般拙者買（讓）受候處相違無之就テハ大會所及ヒ箇所規約等堅ク遵守可致候依テ此段御届仕候也

年　月　日　　郡村名番地

買受人　何ノ誰

頭取　宛

鹽田賣渡書式

何國何郡何村何番地濱

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一鹽田何町何反歩
地價何百何十圓

右拙者義所有之鹽田當度何國何郡何村何番屋敷何某へ賣渡致候間此段御届仕候也

年　月　日

郡　村　名　番　地
賣渡人　何　ノ　誰

頭　取　宛

製鹽賣捌問屋取締規則

第一條　製鹽賣捌問屋業ヲ爲ス者ハ五箇所鹽田組合ニ於テ定メタル條件ヲ遵守スルモノトス

第二條　五箇所鹽田組合ニテ定メタル鹽價ヲ自故ニ於テ左右スルヲ許サス

第三條　製鹽賣捌問屋業者ハ規約遵守ノ爲保證トシテ各金三十圓ヲ出金シ鹽田組合頭取ノ名稱ヲ以テ銀行へ定期預ケトシテ預ケ置クモノトス

但シ此金員ハ賣捌營業中ハ備へ置クモノトス

第四條　製鹽賣捌上ニ於テ鹽田組合ノ定メタル鹽價其他ニ於テ違反ノ所業ヲ爲タル者ハ其營業ヲ停止若クハ相當ノ違約金ヲ出スヘシ

第五條　製鹽賣捌問屋業者ニ於テ自然違反所業ヲ爲シタルトキハ鹽田組合頭取及ヒ箇所頭取ヲシテ其違反ノ輕重ヲ定ムルモノトス

第六條　第五條ニ依リ判定シタルトキハ違反者ハ異議ヲ唱フルヲ得ス

第七條　違約金徵收ハ第三條ニ定メタル保證金ヲ以テ控除スルモノトス

第八條　第三條ノ保證金ハ定期預ケノ利子ニ附シ其利子ハ出金主へ配當スルモノトス

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

但シ利子金渡方ハ毎年陽暦十二月廿五日頭取ヨリ相渡スヘシ

今般五箇所鹽田組合ニ於テ御決定相成候製鹽賣捌問屋取締規則自第一號至第八條件正ニ了諾仕候依而尚將來遵守ノ證トシテ各自記名捺印仕候也

製鹽賣捌問屋掛

二　鹽販賣組合ノ組織規定及沿革前項製造組合ト同一ニ記述シタリ

三　燃料其他需用品購買組合ノ組織規定及沿革　該當記事ナシ

第十一章　試驗

一　採鹹、煎熬其他鹽業ノ改良ニ關スル試驗ノ事蹟及方法　管內、大海、青江、花香、中津江、南鶴ノ五濱等ニ於テハ製鹽改良ノ目的ヲ以テ試ニ明治卅五年ノ頃鑄鐵製煎熬釜ヲ裝置シタルニ孰レモ其結果不良トシ經驗ヲ重ネスシテ漸々廢棄シ今ヤ隻影ヲタニ止メサルニ至レリ

製鐵製釜ノ裝置如何ハ今日ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得サレトモ單ニ石釜ニ代フルニ之ヲ以テシタリト云フニ止マリ釜ノ構造上別ニ特殊ノ點ナキカ如シ又不結果ニ終リシト云フ原因ハ著シク鹹水ノ結晶遲緩ニシテ石釜ニ比シ一日間煎熬釜數ヲ減スルコト三乃至六ニシテ經令幾分カ燃料ヲ減少スルノ利益アリトスルモ比較上不利益タルヲ免レスト云フニアリテ其品質及一釜ニ於ケル產鹽量ノ如キハ二者殆ント同一ナルカ如シ若シ果シテ鐵釜排斥ノ理由ニシテ如此單純ナリトセハ尚利害得失研究ノ餘地アリト言ハサルヘカラス又近頃同一ノ目的ヲ以テ普通石釜ヲ使用シテ眞鹽ヲ製シ又差鹽ニ於ケル苦汁量ノ半減ヲ試ムルモノアリ其製鹽ヲ見ルニ品質比較的良好ニシテ好成蹟ト認メラル然レトモ製造者ノ損益關係ニ至リテハ多少ノ日子ヲ經ルニアラサレハ知悉スルコトヲ得ス

第十二章　輸出入及試賣

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター

一　支那、朝鮮、浦潮等各方面ヘノ輸出又ハ試賣若クハ諸外國ヨリ輸入シタル事蹟及沿革　管內花香、中津江、兩濱ノ產鹽ヲ兩三年前ヨリ數回朝鮮、及浦潮等ヘ輸出ヲ試ミタルモノアリ然レトモ之レ北國船カ自己ノ計算ニヨリ爲シタルモノニシテ今其結果ノ如何ヲ知ルコトヲ得ス其他外國ヘ輸出、試賣又ハ外國ヨリ輸入シタル事蹟ナシ

第十三章　鹽田以外ノ製鹽裝置及方法
第十四章　燒鹽製造裝置、方法及包裝ノ方法
第十五章　再　製　鹽

右三章該當記事ナシ

第十六章　鹽田ノ地價等

一　鹽田ノ地價、時價、小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較　鹽田地價、時價、小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較ハ時ト處トニヨリ多少ノ高低アルヲ免レスト雖其概要左表ノ如シ

種目	地目	地位	所品	上	中	下
地價	鹽田			廿五圓卅三錢	二十圓	十三圓三十三錢
時價	鹽田			四十五圓	卅二圓五十錢	廿圓
小作料	鹽田			二百五十圓	百六十圓	百圓
	鹽田			三百圓	百八十圓	百圓
	田			廿三圓（四斗入四俵）	十六圓（四斗入三俵）	十圓（四斗入二俵）

備考　本表ニ於テハ總テ一段歩ヲ標準トシテ計算セリ

PDF制作・管理：公益財団法人塩事業センター